

沼津高専だより

第122号

令和5年3月7日発行

独立行政法人国立高等専門学校機構

沼津工業高等専門学校

〒410-8501 沼津市大岡3600

TEL 055-921-2700 URL <https://www.numazu-ct.ac.jp/>



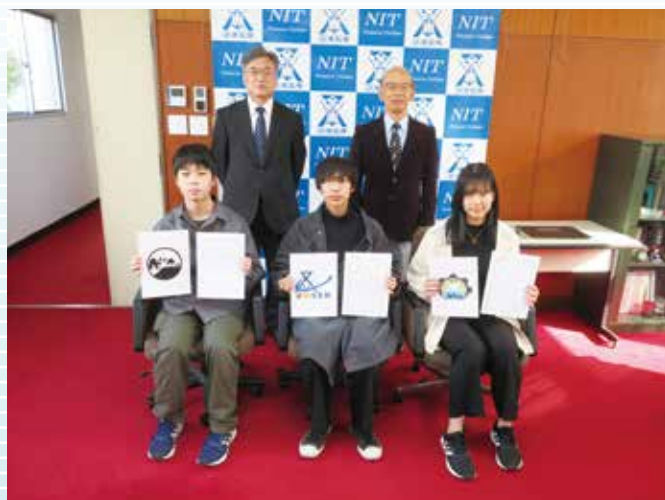
体育祭（バスケット）



高専祭（吹奏楽ステージ）



高専ロボコン2022東海北陸地区大会にて特別賞を受賞



沼津高専ロゴマーク表彰式

目次

☆校長・副校長・校長補佐から (令和4年度総評)

「虫めづる姫君」…………… 学校長 岡田 哲男 …… 3

温故知「真」へ…………… 副校長 (総務主事) 稲津 晃司 …… 3

気付きの大切さ…………… 校長補佐 (教務主事) 芹澤 弘秀 …… 4

今後の学生生活への期待…………… 校長補佐 (学生主事) 佐藤 誠 …… 4

今年1年を振り返って…………… 校長補佐 (寮務主事) 永禮 哲生 …… 5

研究支援・地域連携活動を振り返って…………… 校長補佐 (研究主事) 高野 明夫 …… 5

令和4年度を振り返って…………… 校長補佐 (専攻科長) 大庭 勝久 …… 6

卒業前の「ブルー」のために…………… 学生生活支援室長 小林美恵子 …… 6

令和4年度を振り返って…………… 国際交流センター長 大川 政志 …… 7

☆各学科から (令和4年度総評)

新年度へ向けて…………… 機械工学科長 新富 雅仁 …… 8

電気電子工学技術で拓く Society5.0社会…………… 電気電子工学科長 大津 孝佳 …… 8

これから社会に出ていくみなさんへ…………… 電子制御工学科長 鈴木 静男 …… 9

「どうすればできるのか」、「無いモノは作れ」の精神…………… 制御情報工学科長 宮下 真信 …… 9

令和4年度を振り返って…………… 物質工学科長 竹口 昌之 …… 10

「物語」と私たち…………… 教養科長 小村 宏史 …… 10

☆部活動

第57回「全国高等専門学校体育大会」入賞者一覧…………… 11

第60回「東海地区国立高等専門学校体育大会」入賞者一覧…………… 11

第2回「東海北陸地区国立高等専門学校体育大会」入賞者一覧…………… 12

☆行事・コンテスト・その他イベント

体育祭：体育祭を振り返って…………… 12

…………… 体育祭実行委員長 機械工学科3年 吉田 渉 …… 12

高専祭：高専祭の形を変えてしまいました。…………… 13

…………… 高専祭実行委員長 制御情報工学科4年 神谷 隆葵 …… 13

知財のTKY (寺子屋) 活動報告：(例)知財のTKY世界デビュー
～WIPO (世界知的所有権機関) World IP Day～…………… 知財のTKY顧問 大津 孝佳 …… 13

知財のTKY活動実績…………… 同好会学生 電子制御工学科3年 肥田 友希 …… 14

第33回全国高等専門学校プログラミングコンテスト：
第33回の全国高専プロコンについてのご報告…………… プロコン同好会顧問 鈴木 康人 …… 14

高専プロコンを経て得られた成長…………… プロコン同好会副会長 機械工学科3年 遠藤 大祐 …… 15

ロボットコンテスト2022：技術継承とチャレンジの繰り返し
～ロボコン部の挑戦は続く～…………… ロボコン部顧問 電子制御工学科 青木 悠祐 …… 15

後悔を糧に…………… ロボコン部部长 電子制御工学科3年 渡邊 巧真 …… 16

☆留学生から

新生活の始まり…………… 電気電子工学科3年 イザトウル インシラー ビンティ イスハク …… 16

☆学生会活動について

今年度の振り返り…………… 学生会長 電子制御工学科4年 杉浦いぶき …… 17

☆退職教職員から

明るい未来を…………… 機械工学科 井上 聡 …… 17

退職のごあいさつ…………… 電子制御工学科 熊谷 雅美 …… 18

沼津高専で過ごした30余年…………… 物質工学科 芳野 恭士 …… 18

☆卒業生・修了生から

貪欲に勉強を！…………… 制御情報工学科5年 岡本 瞬 …… 19

高専への編入…………… 物質工学科5年 加納 匠 …… 19

専攻科での成長…………… 医療福祉機器開発工学コース2年 岩崎 竜星 …… 20

☆学生の研究活動 (2022.4.1～2023.3.31)…………… 21

☆令和4年度卒業生・修了生進路先一覧…………… 27

☆教育後援会から

何故、勉強するの？…………… 教育後援会会長 石井 征 …… 30

☆同窓会から

時を活かす…………… 同窓会会長 長岡 善章 …… 30

☆お知らせ

令和5年度授業料免除及び徴収猶予等について…………… 31

各種奨学金について…………… 31

令和5年度 (令和5年4月～令和6年3月) 行事予定表…………… 33

沼津高専意見箱について…………… 33

校長・副校長・校長補佐から(令和4年度総評)



「虫めづる姫君」

学 校 長
岡 田 哲 男

私は昆虫が好きで、子供の頃は捕虫網と虫かごをもって蝶やトンボを追いかけていました。デジタルカメラが一般的になり始めた10数年前昆虫熱が再発し、捕虫網をカメラに持ち替えて、主に蝶の写真を撮るために海外を含むあちこちに出かけるようになりました。昆虫の分類や生態、その根源にある分子生物学に研究者魂がゆすぶられるということではなく、昆虫をモチーフに肉眼では捉えられない自然の一瞬を切り取ることに喜びを感じています。残念ながら、これとは思える写真はなかなか撮れません。

30数年前、娘が生まれました。私は娘を虫好きにしようと、「虫めづる姫君」計画を遂行しました。歩き始めた娘に捕虫網を持たせて、蝶やトンボを網に入れる面白さを覚えさせたり、昆虫満載の本を繰り返し読み聞かせたりしました。おかげで、庭先を飛ぶ小さな赤い蝶を見た

娘が「ベニシジミ！」と言うのに時間はかかりませんでした。しかし、この計画は最終的に失敗に終わり、娘は虫を気味悪がるようになってしまいました。

「虫めづる姫君」の著者は、この姫君を高く評価していたのか、ネガティブに捉えていたのかはよくわかりませんが、個性豊かな“変人”として扱っています。コロナ禍以降同調圧力が増し、他人と同じであることが無難と考える人が増えています。この風潮が没個性を促したり、“変人”を排除したりすることにつながっては困ります。皆さんは誰もが周囲の人たちとは異なる考え方や視点などを多かれ少なかれ持っているでしょう。大多数とは違うという理由だけでそれを切り捨ててはいけません。時には、ある程度それにこだわりや誇りを持って良いでしょう。私たちは、環境やエネルギー、政治や経済で多くの困難や課題に直面しています。私は、“変人”が新しい概念やアイデア、技術を創出して、これらを克服してくれると信じています。

高専は、良い意味でオタクを育成するところです。大多数からすれば、オタクは個性ある“変人”に違いありません。現在そして未来の危機から地球と人類を救ってくれる“変人”が、皆さんの中から出てくることを期待しています。



温故知「真」へ

副 校 長 (総務主事)
稲 津 晃 司

様々なチャンネルで皆さんに知らされている通り、今年度は高専制度の発足と本校の設立の60周年でした。この機会に高専の魅力を周知すべく、活発な広報活動や学生向けの多数のイベント等が行われました。本校では文化講演会の演者に高専OBでもある東京工業大学の益和哉学長を迎え、理工系の学生と高等教育機関のこれからについて、大きな視点からお話をいただいたこと、本校同窓会と顧問教員の野毛先生はじめ高専祭スタッフの多大なる協力のもと、高専祭の併催イベントとして初めてのホームカミングデーを実施しました。

コロナ禍の終息を見通すことがまだまだできない中、どのくらいの卒業生や退職教職員の皆さんに来てもらえるのか、そもそも開催できるのかに不安を感じながらの実施でしたが、100名近い方の参加を得て盛会のうちに終えることができました。とりわけ、高専祭スタッフが卒業生と語らいながら構内を案内するキャンパスツアーが好評でした。イベント本編以外でも卒業生による企業展

示を併せて行ったことで在校生や保護者が多数来場しました。旧交を温めたり、新旧それぞれに新しい発見があったり、文字通りいろいろな人にとってそれぞれの良い交流の機会になりました。立ち止まるばかりでなく、必要なことにしっかり留意した上で試みを行なうことが望外の成果をもたらしうることを再認識しました。

一方、この試みも成果も新しいことだけが良いというわけではありません。技術をはじめ社会情勢の変化が目まぐるしいことは言われて久しく、コミュニケーションや多くのシステムは、コロナ禍で必要に迫られてその様態が一新されました。予測困難な時代で成長を続けるには、「新しい」取り組みを行い続けることが必要だと声高に叫ばれる日常で、最近「異次元の」取り組みなる文言も見聞きするようになりました。確かに、ただ変化を拒みこれまでや現状に甘んじて旧態依然たることは好ましくないとされます。しかし、古いことが全て変えられるべきでないことも皆さんはよくご承知です。良いもの/ことを作り/成すには、これまでのこと、現在のこと、そしてこれからのことをよく調べたり、考えたりして取り組み、何が良いかを理解したり、見出したりする必要があります。得られる成果や結論は、新しいものとは限りません。複雑化、高速化する情勢の中でそれぞれの人と社会が望む姿を実現するには、温故知新から温故知「真」へと進むことが肝要ではないかと感じます。何が良

いのかをしっかりと見極め、行動することがますます大切になっています。本校にはホームカミングデーで感じられたような「良い」財産があります。学生の皆さんにも

本校にも能動的にこの財産を活かしてもらえるように私の微力を尽くしたいと思います。



気づきの大切さ

校長補佐（教務主事）
芹澤 弘 秀

新型コロナの影響はまだまだ長引きそうですが、今年度は多方面でコロナ前の状況に近づけた1年だったと感じます。特に4学年ではクラス担任のご尽力により3年ぶりの宿泊を伴った研修旅行を実施でき、今後の進路選択に向けて大変有意義な研修になりました。来年度も安全面への配慮を欠かすことなく様々な行事を以前のような形で実施する予定ですので、保護者の皆様には引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。

さて、年度末には成績表という形で1年間の学修成果が数字として示されます。努力が結実した人もいれば、不本意な結果となってしまった人もいるでしょう。もちろんコロナの影響は非常に大きく、2～3年生は入学時から不慣れな遠隔授業を余儀なくされ、4～5年生は専門科目の勉強で大変苦労したと思います。その環境下でも計画的に勉強して納得できる十分な成果が得られた人は、正しい勉強法を実践できていると思いますので、是非ともその方法を継続し、時には点検や改善も行ってください。一方、不本意な成績だった人や、そもそも勉

強の意欲が湧かなかったという人は、その問題点を明らかにし、改善に繋げてほしいと思います。特に重要なことは、「怠けてしまった」と自分を責めるのではなく内面に目を向け、その根底に潜む根本的な原因を突き止めることです。そのためには物事の本質を理解する「気づき」が重要となります。誰も「悪くならう」とは思っていないはずですが、なぜ悪い方向に進むのかと言えば、その時々での選択の積み重ねによります。脳内物質の影響で、我々は無意識のうちに快感や安心が得られる方向を選択し、不快感や不安、苦痛を感じることを排除する傾向がありますが、その分泌量には個人差（生まれ持ったものと習慣に基づくもの）があり同じ状況下でもその感じ方は人によって異なるため、まずは自分の状態を正しく知ることが重要です。意欲が湧かない人は達成感をすぐに感じられること（整理整頓や軽い筋トレ等）を継続し習慣化することで生活リズムを作るとともに、達成感が継続する脳回路形成に繋げてください。また、高い目標の達成には苦難を乗り越え様々な場面で適切な判断を行える価値観の形成が必要です。他者の一言で価値観が大きく変わり、意欲が高まって目標の達成に繋がったというのは良く経験することです。書籍がきっかけとなることもあり、外からの言葉に耳を傾ける機会を増やすことが大切です。学生の皆さんには是非とも春休み中に自己の状態を正しく把握し、問題がある場合は多くの経験を通してその改善に繋げてほしいと願います。



今後の学生生活への期待

校長補佐（学生主事）
佐藤 誠

今年度は、できるだけ制約のない学生生活の実現を目指して学生会をはじめとする学生たちと共にコロナ下でできることを実現してきました。高専体育大会は、ある程度観客を入れる形での実施がなされ、ロボコンでは、久しぶりに各高専が一堂に会して対戦形式での実施がなされました。そして、本校の高専祭も保護者や一般の方に来場していただく形で実施することができ、スポーツ大会も多数の球技種目を行う形式で実施することができました。今後も感染防止対策は継続されなければならないとは思いますが、これから徐々にコロナ以前の学生生活に戻っていくことと思います。

私はこれまでに様々な制約がなされてきたことで、学生たちの気持ちの中にネガティブな感情が芽生えている

のではないかと気になっています。学生たちにはこれまで制約されてきた分、今後はこれまで以上に積極的にいろいろなことにチャレンジしてほしいと考えています。これからの学生生活では単にコロナ以前の生活に戻るのではなく、コロナ以前の生活にコロナ下での経験を生かした新しい学生生活が模索されるべきだと考えています。それがどんな学生生活なのか今の段階で具体的には示すことができませんが、そのようなことを考えていきたいと思っています。例えば、コロナによる遠隔方式は世界をより身近なものにしたと思います。学生たちの交流という点では、より広い形での交流も可能になっていると思いますし、国内におけるチャレンジだけでなく海外におけるチャレンジということもそれほど難しくはないと考えています。様々な可能性を学生たちに提供していく中で、学生たちと共に考えていければと思っています。今年度の初めに学生たちには、失敗を恐れず得意な分野でさまざまなチャレンジをしてほしいと述べました。いくつかの新しいチャレンジにトライした学生たちもいましたが、私は本校の学生たちの持つポテンシャルはまだまだこんなものではないと思っています。来年度以降も

より多くのチャレンジができるような体制を構築していければと思っています。

今年度は昨年度に比べ、学生の交通事故が減少しています。大変喜ばしいことですが、本校の通学路は非常に危険な場所がいくつかあります。また、来年4月からは

道路交通法の改正により自転車のヘルメット着用が努力義務化されます。それ以外にも安全な学生生活を送るために学内に夜間照明の新設や防犯対策等を今後できる限り進めていきたいと思えます。



今年1年を振り返って

校長補佐（寮務主事）
永 禮 哲 生

平素より、学生寮の運営にご理解、ご協力頂き誠にありがとうございます。本年度も昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染対策として全室を一人部屋として寮運営を行ってまいりました。これは単に居室での感染を防止するだけでなく、人数を制限することで風呂や食堂での過密を避けるための措置でもあります。令和5年度も同様の方針で寮を運営して参ります。寮での生活を期待していた新入生、再入寮を希望していた低学年の現寮生にも入寮をご辞退いただかなくてはならない状況にありますこと深くお詫び申し上げます。

令和5年度に優峰寮を改修・建替えをすることが決定いたしました。優峰寮の改修に伴い入寮可能人数は減じますが、本年度1フロア当たりの人数を制限していた秀峰寮の運営を見直し最小限の減員とし、約400名の定員を確保致します。

本年度の学生寮も新型コロナウイルスの影響を大きく受けた1年となりました。5月には1年生の保護者の方限定ではありましたが、3年ぶりに寮生以外の来場者を

お迎えして寮祭を開催しました。来場者の検温や健康状態の確認など寮生が主体となって運営し、感染者を出すことなく実施できました。過去の賑わった寮祭を知る寮生が少なくなる中で、来年度以降に繋がるよい経験が出来ました。7月には新型コロナウイルスの感染が学生寮でも拡大し、一時的に臨時閉寮し遠隔での授業実施となりました。保護者の皆様には急な閉寮にもかかわらず、粛々とご対応いただきましたことまことに感謝いたします。10月より昨今の不安定な国政情勢に端を発する電気料やガス料金の高騰により寮費月額の設定をおこない、さらに1月には寮費の臨時徴収を行いました。保護者の皆様にはご負担を強いることとなり誠に申し訳ありませんが、ご理解のほどよろしく願いいたします。

私自身主事として初年度であり至らぬ点多くあったかと存じますが、無事1年を終えることが出来ました。これは感染対策や節電など制約が多い中で、新たな生活様式に対応した寮運営や寮生が楽しめる企画をしてくれた寮生会、日々の生活支援や寮生会の運営を補助してくれた寮務関係教職員、教育後援会中心とした保護者の皆様のご支援、ご理解があってこそのものだと実感しております。

来年度も引き続き寮務主事を務めさせていただきます。本年度より少しでもより良い寮運営が出来るよう努めてまいりますのでよろしく願いいたします。



研究支援・地域連携活動を振り返って

校長補佐（研究主事）
高 野 明 夫

研究主事は地域創生テクノセンター長を兼務し、教員の研究活動の支援だけでなく、地域創生テクノセンターを核とした地域連携活動を行っています。今年度の活動状況を振り返り、3点ほど報告します。

1点目は、研究支援についてです。今年度は教員の研究教育活動を後押しする校長リーダーシップ経費を、研究教育奨励費と研究教育アチーブメント、及び若手褒賞の3つに大別し、教員の皆様に活用しやすい形に変更しました。また、文部科学省の科学研究費補助金の申請について、これまで、申請する先生に個別に審査員経験のある先生から査読やアドバイスをを行うようにしてしまし

たが、数が限られていました。今年度は査読者数を増やし、科研費申請書30件に対し8割の24件分について事前査読を行いました。事後アンケートによると査読を受けた先生方から査読意見について大変役立った65%、役立った35%という高評価をいただきました。一人で暗中模索しながら申請書を作成するよりも、第三者の目を通すことによって改善点を見出した先生が多かったことが伺えます。この結果を踏まえ、今後も事前査読を継続していきたいと思えます。

2点目は、共同研究や受託研究についてです。令和4年度分は現時点で確定していないため、ここ数年の状況を報告します。件数は20数件で推移していますが、受入総額は、平成30年度3885万円だったものが令和元年度に1476万円へと急激に落ち込みました。しかしその後、令和2年度1479万円、令和3年度1665万円へと漸増しており、新型コロナの影響で急激な回復にはなっていませんが、企業活動が僅かずつ回復していることが伺えます。令和4年度はさらなる増額が見込まれています。なお、

地域創生テクノセンター内には未来創造ラボラトリーが設けられて、今年度も昨年度同様4社の入居があり、学生のインターンシップの受け入れや本校教員との共同研究を行っていただいています。今後もこうしたCOOP教育活動を通じた共同研究の推進を図っていききたいと思います。

3点目は、イベントについてです。11月15日に静岡県共同創業型ベンチャー誘発プロジェクトセミナーがあり、電子制御工学科の鄭萬溶教授による講演がありました。11月28日には、沼津高専設立60周年記念事業として第17回静岡県東部テクノフォーラムin沼津高専を開催しまし

た。始めに本校元校長で静岡県立工科短期大学校長柳下福蔵先生からの基調講演、その後企業展示を行いました。17の企業・団体の皆様にブース出展していただくと共に、今年度はさらに専攻科学生のパネル展示を通じて教員の研究活動の紹介も行いました。207名の皆様が参加くださり、地域企業の皆様と本校教員及び学生との交流を深める事ができました。

今後も、皆様のご理解とご支援をいただきながら、地域創生テクノセンターを核として研究支援・地域連携活動を進めて参ります。よろしくお願いたします。



令和4年度を振り返って

校長補佐（専攻科長）
大庭 勝久

日頃より専攻科の教育活動にご理解とご協力を頂き、誠にありがとうございます。令和5年1月現在における専攻科の在籍学生数は、1年生31名、2年生30名の計61名であり、4月には33名の入学者を迎える予定です。

今年度もコロナ禍による制限がある中、豊橋技術科学大学との連携教育プログラムの在学者1名を含む専攻科生は、積極的に学修・研究活動に取り組んでくれました。また、1年生の後期約4ヶ月間に渡って実施される学外実習では、企業に26名、大学あるいは研究機関に9名が配属されました。この内、6名が複数の実習先にて実習に取り組み、技術者・研究者として幅広い経験を得る貴重な機会となっています。

本校は、令和3年度～4年度にかけて日本技術者教育認定機構（JABEE）による継続審査を受審しました。事前に提出した自己点検書等に基づいて10月にWeb審査の形式で実施され、本校における専攻科および本科4、5年次における技術者教育は、地域産業との密接な関わり

も重視して社会の要請に基づく人材の育成に貢献していること。また、各科目と学習・教育目標を関連付けて履修計画を検討する仕組み（受講プランチェック表）と、学生自身が達成度を継続的に点検し、主体的な学習を促す仕組み（学習・教育目標の達成度評価（レーダーチャート））が有効に機能していることなどが高く評価されました。その一方で、今後より良い教育を実施するための改善点も指摘されており、専攻科運営委員会で検討・改善を進めていきたいと考えています。

最後に、2年生の進路について報告します。1月12日現在、30名中29名の進路が決定しています。就職内定者は19名（テルモ、セブンセンス、スター精密、東芝キャリア2名、ジョンソンコントロールズ、東レエンジニアリング、日立ハイテクサイエンス、矢崎総業、森永乳業富士工場、タマディック、日立ハイシステム21、三菱電機、トヨタ自動車東日本、ピサイズ、ヤマハ、材料科学技術振興財団、静岡県職員、沼津市職員）、大学院への進学予定者は9名（広島大学、京都工芸繊維大学、東京工業大学、慶応義塾大学、電気通信大学、大阪大学、千葉大学、神戸大学、東京医科歯科大学）、沼津高専研究生の予定者が1名です。

今後も技術者教育の改善を図り、専攻科生にとって魅力のある学修環境を整備して参りますので、ご理解とご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



卒業前の「ブルー」のために

学生生活支援室長
小林 美恵子

今年度を振り返れば、コロナ禍はいまだ収束を見ることがなく、不穏な事件や戦争の勃発、物価高騰などで、穏やかとは言い難い一年でありました。校内でも日々の中には平穏無事とばかりは言い切れない部分もあり、中でも相次ぐ現役教職員の急逝という思いもかけない悲しい経験をしたことは忘れられない出来事となりました。このような中でも何とか日常を保ち、真摯に学業に取り

組む学生たちの姿には胸を打たれるばかりです。保健室やカウンセリング室、合理的配慮相談窓口を通じ、今年度も学生生活支援室には多くの学生から相談が寄せられました。年度当初には、学生自身のSOS発信能力を高めたい、という目標を掲げましたが、教職員一同からのバックアップを受けつつ、理想的な到達状況に至っていることを実感しております。何より保護者のみなさまとの連携が円滑に叶っておりますことには深く感謝申し上げます。

昨今、ちょっと気がかりな傾向として、卒業を控えた5年生や専攻科生に、マリッジブルーならぬ進路決定後のブルーな心境が起りがちという状況がみられています。せっかく前途洋々たる未来を手にしたのにどうしたんだ、と背中を叩いてやりたくなりますが、もし自分に

向いていないところだったらどうしよう？人と話すのが苦手な自分が、大きな企業でやっていけるだろうか？などといった不安が渦を巻き、大きなストレスになることも珍しくありません。高専という住み馴染んだ環境から大きな海へ漕ぎ出すのは、容易なことではないのでしょうか。中でも、年上の大人たちとどう接したらよいか、ということに怯えを感じる学生は、決して少なくありません。彼らにとって大人とは、価値観や判断基準の全く異

なる異星人のようなものです。しかしながら、この異星人に興味を持って近づけるか否かが、社会に馴染めるか否かをも左右するように思われます。保護者の皆さまには、ぜひご自身の体験談を語って聞かせる機会を設けてみてはいただけないでしょうか。大人は異星人なんかじゃない、みんな同じように失敗しながら大人になったんだよ。そんな話を聞くことで、学生たちが怯む心を奮い立たせ、元気に巣立ってくれることを願ってやみません。



令和4年度を振り返って

国際交流センター長
大川 政志

国際交流センターは、海外交流委員会と留学生支援委員会からなり、沼津高専の国際化を推進しています。昨年度まではコロナ禍により海外渡航など含め国際交流が行えない状況でしたが、本年度から少しずつ海外交流を行うべく動いております。まずモンゴルとマレーシアか

ら2名の留学生を3年生として迎えることができました。9月にはISA主催の「エンパワーメントプログラム」を実施し、1年生から4年生までの39名の学生が参加しました。様々な国から来日している大学院留学生と英語だけで過ごす5日間のプログラムでしたが、英語に自信のなかった学生も含め最終日には参加者全員が自分の将来について英語でスピーチするなど、非常に有意義な体験となったようです。また、3月8日から3月26日の期間で、アメリカ異文化体験・語学研修プログラムがウェスタンミシガン大学で予定されており、5名の学生が参加することになっております。



エンパワーメントプログラム（9月）の様子



各学科から(令和4年度総評)



新年度へ向けて

機械工学科長
新 富 雅 仁

日頃より、機械工学科の教育・運営にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

まずは、卒業を迎える学生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。現在も室内ではなかなかマスクを外すことができない状況は続いています。学校行事は徐々に再開され、学生生活を楽しむことはできたでしょうか？卒業後のみなさんのご活躍を心からお祈り申し上げます。たまには学校に顔を出し、近況を我々や後輩に伝えてくれると嬉しく思います。

4年生は本年度12月に工場見学に出向いたほか、5年前に本科を卒業した2名のOBに来校いただき話をしてもらいました。OBとの座談会では、働くことへの不安を少し取り除くこともできたのではないのでしょうか。この号が発行される頃には就職活動が本格化し始めていること

かと思えます。進路決定にはいろいろ悩みもあるかと思えますので、教員には遠慮なく相談してください。ご家庭でもぜひ相談にのって頂ければと思います。

3年生は、進級するとすぐにインターンシップ先の選定期間になります。春休みには進路について真剣に考え始めてみてください。2・1年生のみなさんも自身の将来を少し思い描いてみてください。何か知りたいことがあれば、いつでも聞いてください。

最後になりましたが、井上聡先生が本年度末をもちまして定年退職されます。機械工学科では金属材料に関する科目をご担当いただきました。また、近年は機械工学科内のさまざまなことがらを整理していただき、効率化を推進することができました。長年のご尽力に感謝申し上げます。さらに、西田友久先生も2年間の再雇用期間が終了となります。改めてご尽力に御礼申し上げます。今後は本校同窓会と本校との関係をさらに強固にするためにご活動いただけるとも聞いております。よろしくお祈り申し上げます。

来年度、機械工学科は新しい先生をお迎えするなど、変化のある年になりそうです。学生のみなさんとは4月に元気に会いましょう。



電気電子工学技術で拓く Society5.0社会

電気電子工学科長
大 津 孝 佳

電気電子工学科長の大津孝佳です。次世代通信規格「5G」の商用サービスが開始され、高速・大容量通信を可能にするものとして「自動車・輸送機器」「医療」「産業用途」での高成長が見込まれています。さらに、通信事業者ではない企業や自治体が個別にネットワークを構築できる「ローカル5G」も実証実験が進められ、高速・低遅延の通信を提供するローカル5Gは、仮想世界でユーザー同士が交流できるメタバースや現実世界と似た環境を仮想世界に構築するデジタルツインなど、今後の商品開発や技術検証、生産ラインの効率化、エンターテインメントなどの分野などでの利用が期待されています。この5Gが活躍するSociety5.0社会に於いて、インターネットに繋がるIoTやAIなど、コンピュータシステムの信頼性が重要です。電気電子工学科は、その基礎となる電気磁気学・電気電子回路から電気材料、電力工学などの知識とスキル、更に、通信やプログラミングなどの制御技術を融合させ、未来の社会システムを担う学科です。特に、2022年度からは4年生を対象とし、半導体プロセス、IoTデバ

イス、サイバーセキュリティについての実験実習科目がスタートしました。また、次世代に向け、社会全体の高電圧化と情報化が進み、電気電子工学科への期待はより高くなっています。本学科は第2種電気主任技術者の認定学科でもあることから、多くの企業からの求人が寄せられています。また、約半分の学生はスキルの向上を目指し、大学や専攻科に進学します。その為、基礎学力の向上のみならず、電子デバイスを支える材料技術・回路技術、信頼性を支える制御技術・通信技術・プログラミングなどの専門教育や実験実習科目の充実を図っています。

2023年度も電気電子工学科の3つの強みを活かして行きます。

1つめは、普及型教育の実践として、基礎学力の充実を目指した「Eスタ」です。上級生が企画・立案・実施し、下級生へ教えて学ぶ中での成長もこのプロジェクトの良さです。

2つめは、強化型教育の実践として、3年生「社会と技術」、4年生「PBL」、5年生「卒業研究」と繋げ、各教員の専門技術教育、情報セキュリティ教育、プログラム教育、知的財産教育、共同教育などにより、Society5.0社会に必要な社会システムを担う人材育成を目指します。

3つめは、地域との連携教育です。富士山や駿河湾、自動車産業など地域特性を活かし、出前授業やKV-BIKE(電池自転車)・環境エネルギー教育など、地域の幼・小・中学校との連携を行っています。

2023年度も宜しくお祈り致します。



これから社会に出ていく みなさんへ

電子制御工学科長
鈴木 静 男

春陽の候、本科5年生と専攻科2年生は門出のときとなりました。誠にありがとうございます。今年度、夏の甲子園で優勝した高等学校野球部監督が、「青春って、すごく密なので、でもそういうことは全部だめだ、だめだと言われて、活動していても、どこかでストップがかかって、どこかでいつも止まってしまうような苦しい中で、でも本当に諦めないでやってくれた」とおっしゃっていました。今年度の本科卒業生は、5か年の3年間、専攻科修了生は2か年の全て、密な時を、できることを模索しながら苦しいながらも勉学や課外活動に勤しんできました。そんな彼らを心から祝福し、今後も応援しています。また、保護者の皆様には、当学科に対しまして多大なご支援とご協力を賜りまして、深く感謝申し上げます。

当学科では、自律移動ロボットシステム（MIRS）を製作する4年生1年間のグループ活動に重きを置いています。1年生からトライアル・アンド・エラーを常とし、

MIRSを経て社会実装につなげられるよう目指しています。そのプロセスとして、外部での発表やコンテストに参加することで、学生や教員のモチベーションを高め、より一層の飛躍を期待しています。今年度は、ディープラーニングコンテスト（DCON）で4つのチームが予選を通過し、現在2次審査に向けて取り組んでいます（高専だよりが出版される頃には結果が出ています）。また、ワイヤレス技術を用いたWiCON、女子学生主体のGCON、静岡県統計グラフコンクールへも本学科からチャレンジしました。このMIRSは、34年間の長きにわたって継続されており、その時々々の社会状況に応じて、内容を組み替えてきました。現在第4世代ですが、近いうちに内容をバージョンアップして第5世代になる予定です。このように、高専ならではの活動を更に磨いていく所存です。進学も含めて社会へ出ていくみなさん、失敗は失敗ではなく成功へのプロセスです。これからも挑み続けて下さい。

最後になりましたが、本年度をもちまして、熊谷雅美教授が定年退職されます。熊谷先生は、2年前に八戸高専から本校に着任されました。特に就職担当では、個々の学生の希望と向き合い、その希望をかなえるために親身にご指導下さいました。この紙面をお借りして先生に感謝の意を表しますとともにご健勝をお祈り申し上げます。



「どうすればできるのか」、 「無いモノは作れ」 の精神

制御情報工学科長
宮下 真 信

全学年の学生の成績や進路について、1年間担任の先生と共に面談をしてきました。そこで、躓いてしまう学生と前向きに取り組む学生との発想の違いに気がきました。今更？と思われるのですが、躓く学生に共通するのは、「何故できなかったか」ことのみを語り、「どうすればできたのか」という声が聞かれない場合が多いことです。担任や学科長に、悩みを打ち明け理解して欲しいと思う結果なのでしょう。こうしたことは誰でも思い当たる節のあることなのですが、自分を正当化するための如何ともし難い脳の所作柄なのかもしれません。しかしながら、理解者を増やしても、残念なことに現状は打破できないのです。一方、前向きな発想の学生は、「どうすれば乗り越えられるか」が原点な気がします。学生達は、「あるモノは利用しろ。無いモノは作ればよい」という考え方をもっているようです。これは、学校教育として教えられることではなく、授業や学校生活を通して学生自身が感じとることなのかもしれません。S科では“ZEROから世の中に無いものを作れ”をスローガンとして、「創造設計」という授業があります。時には既存の

モノを利用し、無いモノは設計して3Dプリンタで作り上げて作品を完成させています。ここで培った「無いモノは作れ」という精神は、あらゆる面で活かされていることを感じます。編入学したい大学を決めて、そこでTOEICが700点以上必要と判断すると、毎年何人も学生がそれをクリアして希望を勝ちとっています。あきらめるのではなく、「どうすればできるのか」を考えるようです。進路に対しても、「自分に不足しているならば作れば良い」という精神で臨む姿勢には感服します。成長し年を重ねていくと、どうしても現状でできる範囲で物事を考えてしまいます。脳は“できる”と思えば、それを実現するための神経回路を作りだします。卒業していく学生諸君には、「どうすればできるのか」、「無いモノは作れ」のS科魂をもち続けて、あらゆることに挑戦して欲しいと思います。





令和4年度を振り返って

物質工学科長
竹口昌之

新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中で始まった令和4年度は、昨年度にひきつづき学生と保護者の皆様には大変なご不便を強いた一年でした。3年前の新型コロナウイルスの感染拡大により学習環境は大きく変化し、本校でも遠隔授業にて学びを続けられる教育環境となりました。コロナ禍前に比べ学びに関する自由度は大きく広がり、学生は最大限の学習成果を得るための時間管理能力が求められるようになりました。授業動画の倍速視聴や場所を選ばずに空き時間での学習が可能となり、学生は、時間当たりの学習成果効率を高めるために、短時間に複数のことを同時に行うスキルやネットワークを通してわずかな時間で情報収集するスキルを（否応なしに）修得しました。コロナ禍後のこの多様な学習環境の広がりには知的欲求に貪欲に応える環境を提供した一

方で、学ぶ者が受け身の姿勢であると学びが停止する可能性があることに気づかされました。単に教育手段として遠隔教材を提供するのではなく、これまで以上に熟考を促す手段となる教育が求められていると感じております。

さて、コロナウイルス禍の混沌とした社会情勢の中でも5年生は進路を決めております。本年度の就職活動の特徴としてオンライン形式による企業説明会や面接が多く行われましたが、就職希望者11名が内定を得ることができました。進学予定者24名に関しては本校専攻科進学13名、大学編入学11名でした。物質工学科を卒業する学生の今後の活躍を期待しております。

本原稿を執筆している12月末において、新型コロナウイルスの収束を感じることができていません。また、社会は新型コロナウイルスの終息（完全制圧）は難しく、新しい生活様式を模索しております。私たち物質工学科教員も保護者の皆様のご協力をいただきながら、社会情勢に対応すべく日々試行錯誤しながら、新しい生活様式での学園生活を築いていく所存です。次年度も宜しくお願い致します。



「物語」と私たち

教養科長
小村宏史

私は国語科の教員ですが、これまで何度か保護者の方から「古文や漢文など、過去の死んだ言葉の授業は要らない」「小説を読ませるより、小論文や履歴書の書き方指導を」といったご意見をいただくことがありました。なるほど世間には「使えない教養より実学を」という声があふれています。「物語」については趣味として読みたい者が読めば良い、ということでしょう。

ただ、「物語」を読み、それについて知ることが本当に「使えない」という点については、異論なしとはしません。私たち人間はほぼ例外なく、世界を「物語」で把握しているからです。人間は事実をありのままに受け取ることが苦手な生き物です。事実と事実を因果関係でつなぎ、そこに「物語」をみいだすことで理解したつものに

なり、納得するのです。

このことは、ドキュメンタリーの類ですら「物語」構造と無縁でないことがよく示しています。運動選手のドキュメンタリーであれば、過去の負傷や、精神的な挫折、指導者との出会いや家族との関係などが因果関係でつながれ、現在の活躍に至る「物語」として生成されます。その「物語」文脈にそぐわないできごとは、事実であっても省略されるのが常です。群小の事実が、本筋を構成するものとそうでないものに分けられ、後者が切り捨てられてしまうのは、わかりやすい「物語」化における弊害といえるでしょう。

古今の「物語」に触れ、その言語表現や構造について考えることは、人が世界を把握するしぐみを知ることにつながります。さらにいえば、無自覚なまま「物語」に支えられ（あるいは縛られ）ている自分自身、他者に勝手な「物語」を押しつけている自分自身を俯瞰的にとらえる姿勢にもつながるのです。

今年度を振り返る時期にあたり、都合の悪い事実を切り捨て、勝手な「物語」に浸っていないか、自戒の念をこめて書いた次第です。



部 活 動

第57回全国高等専門学校体育大会入賞者一覧

| 競 技 | 種 目 | 順位 | クラス | 氏 名 |
|---------|-----------------|----|-----|---------|
| 水 泳 競 技 | 女子の部 100m平泳ぎ | 3位 | D1 | 新 村 悠 文 |

第60回東海地区国立高等専門学校体育大会入賞者一覧

| 競 技 | 種 目 | 順位 | クラス | 氏 名 | 全国 出場 | | |
|-----------------|--------------|--------------|-------------|---------|--------------|---------|---------|
| 陸 上 競 技 | 男子の部 | 三段跳 | 3位 | E3 | 鈴 木 郁 也 | | |
| | | 4×100mリレー | 3位 | S2 | 沖 夏里武 | | |
| | 3位 | | S1 | 鍵 山 昂 志 | | | |
| | | | M4 | 森 一 翔 | | | |
| | 女子の部 | 女子やり投 (600g) | 2位 | S5 | 内 田 幸 志 | | ○ |
| 総合 | 1位 | | 青 木 真里亜 | | | | |
| 空 手 道 競 技 | 団 体 | 組手の部 | 1位 | S4 | 神 谷 隆 葵 | | |
| | | | 1位 | M4 | 山 川 大 賀 | | |
| | | | | M2 | 山 内 新 大 | | |
| | | | | S1 | 松 浦 慶 太 | | |
| | | | | D4 | フリーマン ジョン 龍馬 | | |
| | 個人 | 男子組手 | 1位 | C4 | 大 角 寿 鶴 | | |
| | | | 1位 | C4 | 大 角 寿 桜 | | |
| | | 女子組手 | 2位 | M3 | 中 倉 嬉 多 | | |
| | | | 2位 | S1 | 松 浦 慶 太 | | |
| | | | 2位 | S1 | 松 浦 慶 太 | | |
| 剣 道 競 技 | 男子団体の部 (勝抜き) | 優勝 | M4 | 小 杉 真 司 | | | |
| | | | D4 | 豊 田 遼 大 | | | |
| | | | S3 | 大 村 喜 助 | | | |
| | | | M3 | 後 藤 優 弥 | | | |
| | | | M2 | 渡 邊 一 吹 | | | |
| | | | M1 | 浅 野 遥 斗 | | | |
| | | | D1 | 樽 林 空 汰 | | | |
| | | | E4 | 今 枝 磨 音 | | | |
| | | | E4 | 伊 藤 大 河 | | | |
| | | | S4 | 三 輪 健 斗 | | | |
| ハ ン ド ボ ー ル 競 技 | | 3位 | E3 | 田 村 健 豊 | | | |
| | | | M2 | 白 井 陽 人 | | | |
| | | | M2 | 田 辺 雅 弥 | | | |
| | | | M2 | 宮 島 達 也 | | | |
| | | | E2 | 久 保 達 也 | | | |
| | | | D2 | 中 村 權 | | | |
| | | | D2 | 勝 亦 柚 斗 | | | |
| | | | E4 | 秋 山 はやて | | | |
| | | | S1 | 宇 戸 楓 真 | | | |
| | | | S1 | 佐 野 優 心 | | | |
| | | | M5 | 細 谷 優 華 | | | |
| | | | D4 | 鈴 木 早 紀 | | | |
| | | | D3 | 杉 山 珠 里 | | | |
| D3 | 長 岡 さゆり | | | | | | |
| 卓 球 競 技 | 女子団体の部 | 3位 | M5 | 細 谷 優 華 | | | |
| | | | D3 | 杉 山 珠 里 | | | |
| | | | D3 | 長 岡 さゆり | | | |
| | 女子個人の部 | ダブルス | 3位 | M5 | | 細 谷 優 華 | |
| | | | 3位 | D3 | | 杉 山 珠 里 | |
| | | 男子の部 | 800m自由形 | 3位 | | E2 | 清 原 翼 翔 |
| | | | 200m自由形 | 1位 | | E2 | 鈴 木 温 人 |
| | | | | 2位 | | E3 | 鈴 木 温 人 |
| | | | 400mメドレーリレー | 3位 | | E4 | 橋 戸 颯 太 |
| | | | | | | D4 | 富 永 悠 陽 |
| | | | | 3位 | | E3 | 縄 谷 賢 史 |
| | | | | | | E2 | 高 井 勇 歩 |
| | | | | | | M4 | 高 井 勇 歩 |
| 100m背泳ぎ | 2位 | | E4 | 鈴 木 温 人 | | | |
| 100mバタフライ | 3位 | | E4 | 鈴 木 温 人 | | | |
| | 2位 | | E2 | 鈴 木 温 人 | | | |
| 400mリレー | 3位 | M4 | 高 井 勇 歩 | | | | |
| | | E4 | 鈴 木 温 人 | | | | |
| | | E3 | 縄 谷 賢 史 | | | | |
| | | E2 | 鈴 木 温 人 | | | | |
| | 3位 | C4 | 野 中 美 花 | | | | |
| | | D1 | 新 村 悠 文 | | | | |
| | | D1 | 新 村 悠 文 | | | | |
| 水 泳 競 技 | 男子の部 | 100m背泳ぎ | 2位 | C4 | 野 中 美 花 | | |
| | | 100m平泳ぎ | 1位 | D1 | 新 村 悠 文 | | |
| | | 100m自由形 | 1位 | D1 | 新 村 悠 文 | | |

第2回東海北陸地区国立高等専門学校体育大会入賞者一覧

| 競 技 | 種 目 | 順位 | クラス | 氏 名 | 全国 出場 |
|-------|------|----|-----|--------|----------|
| バレー競技 | 男子の部 | 3位 | S4 | 大庭 勇人 | |
| | | | E4 | 佐野 慎乃輔 | |
| | | | M5 | 永井 龍雲 | |
| | | | S3 | 江塚 千洋 | |
| | | | D4 | 小柳津 拓馬 | |
| | | | C4 | 杉山 立成 | |
| | | | S2 | 大川 大輔 | |
| | | | E3 | 進藤 魁利 | |
| | | | E3 | 互野 八起 | |
| | | | D3 | 畠山 大和 | |
| | | | S2 | 小宮山 敦大 | |
| | | | E2 | 荻原 咲久 | |
| | | | M1 | 山内 丈瑠 | |
| | | | M1 | 佐藤 天真 | |

※バレー競技においては、東海地区大会が令和3年度より北陸地区との合同開催となっている。



行事・コンテスト・その他イベント

体 育 祭

体育祭を振り返って

体育祭実行委員長 機械工学科3年
吉 田 涉

令和4年度に体育祭実行委員長を務めさせていただきました。吉田涉です。この場を借りて、体育祭を振り返り総評をさせていただきます。

2022年10月12日水曜日に、体育祭が行われました。

新型コロナウイルスの感染拡大対策や雨天による中止により、全学生参加となる体育祭は実に4年ぶりとなりました。体育祭の経験がある学年は4、5年生のみ、半数以上が体育祭未経験と不安が多い体育祭でした。しかし、体育祭実行委員、お力添えいただいた先生や学生会の方々、審判と会場整備を引き受けてくださった部活連の皆様、そして体育祭に参加してくださった学生のみなさんなど、ご協力くださった方々のおかげで無事体育祭

を終えることができました。

今年度の体育祭は、ドッジボール、ソフトボール、ハンドボール、バレーボール、バスケットボール、フットサルの6種目を学科対抗で行いました。多くの競技の運営を、新型コロナウイルスへの対策をしながら同時進行することは大変でしたが、体育委員がタイムキーパーと本部への連絡を務め、学生会に手助けしてもらい、部活連の方々に審判を依頼することで無事予定されていたタイムテーブル通りに体育祭を終えることができました。

より多くの学生の参加を促すために、それぞれの競技に参加チームの最低人数を設けました。結果的に多くの学生の参加がみられましたが、人数をそろえることができず不参加となってしまったクラスが出てきたため、次の体育祭ではルールを見直そうと考えました。

体育祭が終わり、体育祭を楽しめたという意見をたくさん耳にしました。高専祭と並び、学生全体で盛り上がる行事にできたと思います。

来年度は、新型コロナウイルスが流行る以前のように前期後期それぞれ1回ずつ、計2回の体育祭を予定していますので、体育委員会の応援をよろしく願います。

高 専 祭

高専祭の形を変えてしまいました。

高専祭実行委員長 制御情報工学科4年
神谷 隆 葵

令和4年度高専祭実行委員長を務めました、神谷隆葵です。今年度実行委員は新型コロナウイルス蔓延前の活気ある高専祭復活を目標に「REach」のスローガンを掲げました。新型コロナウイルス感染の収束の見通しが全く立たない中、やりたいことを諦めることはせず、実現できる方法は何なのかを常に考えて4月から各部署長らを中心として準備を進めていきました。3年以上前の活気ある高専祭を知っている最後の世代として、今年の高専祭開催の責任は非常に重大でした。コロナ禍で引継ぎ資料が殆ど消滅、活気を取り戻しつつクラスターの発生は防止、伝統を引き継ぎつつも次世代以降が運営しやすいように、という厳しい条件の下、必死の思いで運営に

当たりました。伝統の良い部分だけを復活させ、その他の部分は何度も長会を開いて擦り合せを重ねて新たな運営システム構築しました。また、高専祭全体を通して大型イベントを開催したに加え、各部署からもその活動範囲を大きく超す尽力を頂くことができました。過去2年は不可能であった一般公開も解禁することができ、延べ来場者数が3000人を超える大盛況となりました。クラスターの発生はありませんでした。今年度高専祭は、結果として数十年続いてきた伝統的な形を大きく変え、私たち実行委員で新たな高専祭の形を0から創り上げました。これは良かったことだったのか悪かったことであったのかはまだわかりませんが、この先の高専祭がより一層有意義かつ活気あるものになっていれば幸いです。副実行委員長、各長は激務という言葉では片づけられないほど多量の仕事をこなしてくれました。本当にお疲れさまでした。また、顧問の野毛先生、学生主事の佐藤誠先生、常に全面的に実行委員会に協力してくださり本当に心強かったです。スタッフの皆さんの協力も非常に頼もしかったです。拙い私を最後まで支えてくださり、本当にありがとうございました。

知財のTKY(寺子屋)活動報告

(祝)知財のTKY世界デビュー ～WIPO(世界知的所有権機関) World IP Day～

知財のTKY顧問
大津 孝 佳

Society5.0を担う価値創造型の未来産業人材育成を目指し、2015年に『知財のTKY「寺子屋」』を設立し、8年目を迎えました。地域特性を活かし、TRIZ(特許分析から生まれた発想法)を武器に、本物への挑戦を通して、課題発見し、アイデアを創造し、解決に挑む。特に、理想と現実を理解し、その差を明確にすることで技術課題の解決策を育むと言ったEducation-TRIZの『トングモデル』の実践を行っています。主な活動は、(1)充電式単三電池40本で鈴鹿サーキットやモビリティリゾート茂木に挑むKV-BIKE(電池自転車)のレースへの挑戦。(2)日本一深い駿河湾(深海2500m)の深海調査活動です。これまでの活動は、4月26日のWIPO(世界知的所有権機関)のWorld IP Day(世界知的財産の日)に於いて、知財のTKYの活動が世界に紹介されました。新たに、駿河湾フェリーと連携した「船上教育プログラム」の支援や、静岡放送と連携した日本財団の「深海研究スーパーキッズ育成プロジェクト」の支援をスタートしました。2022年度のEne1-GP SUZUKA全国大会では、空力特性改善車両の4選に2年連続で選ばれました。また、Ene1-GP MOTEGI全国大会では大学高専部門「3位」に輝き

ました。深海調査プロジェクトは松崎沖深海2030mの4K撮影に成功しました。得られた映像は沼津港深海水族館との連携し、マリンスノー映像の展示やオオグソクムシの行動観察を行いました。それらの活動の成果として、第93回日本動物学会全国大会(早稲田大学)に於いて、①オオグソクムシの交替性転向反応の行動観察と解析、②オオグソクムシの交替性転向反応と逃避行動、③駿河湾の深海調査から船上教育プログラム制作へ、④駿河湾3Dモデル用いた深海地形とマリンスノー蓄積、⑤SNSを活用した駿河湾における鯨類調査の5件が「ポスター賞」を受賞しました。更に、第18回TRIZシンポジウムに於いて「TRIZを武器に駿河湾の魅力を発信」が「あなたにとって最も良かった発表」に輝きました。



←KV-BIKEプロジェクト



→深海調査プロジェクト

知財のTKY活動実績

同好会学生 電子制御工学科3年
肥田友希

TKYとは寺子屋の頭文字で、学生自らが進んで学ぶ姿勢を大切にしています。各々の興味のある分野に関してクラブ内でプロジェクトを設立・参加し、全力で取り組んでいます。活動内容は多岐にわたるものの、全てのプロジェクトに共通していることがあります。それは発想法TRIZを武器にTKYを知財創造教育のキャンパスとして、深海、地形、生物、歴史、文化など様々な秘密の解明に挑戦しているということです。また、そこから得られた知見を権利化し、地域産業や教育に活かすことを目的とした活動を行っています。

具体例を本年度の主な活動から挙げると、ヤマハマリーナ沼津や伊豆松崎マリーナと連携した駿河湾2030mの4K映像撮影での深海調査、その映像を公証人役場にて日付確定を行い活用を行った駿河湾フェリーと連携した新しい観光モデルの構築・沼津港深海水族館からの依頼での展示動画の編集とその提供、そしてオオグソクムシについての観察。電池自転車を用いたKV-Motoでは2チーム参加し、鈴鹿大会ではタイムアタックとトライアルにて総合5、6位に入賞。茂木大会では2、3位に入賞しました。また、日本動物学会にて深海調査から2件、オオグソクムシから2件、SNS鯨類調査から1件を会場

稲田キャンパス現地にて発表を行いました。

活動で得た技術・経験を用いて日本財団深海研究スーパーキッズ育成プロジェクトという地域と連携した教育活動では、深海生物の魅力を活かしたバイオミメティックロボットの開発支援も行いました。

前の年では、世界知的所有権機関WIPOとの連携で動画を作成、発信しています。

独立したプロジェクトで動きつつも、これらの活動は各々のプロジェクトが築き上げてきた独自の強みを活かすことにより、一つのプロジェクトの技術や知見だけでは不可能なことも実現可能にしてきました。これが、私たちの最大の強みであり、魅力です。来年度も更なる貢献を目指して日々活動に励んでいく所存です。



知財のTKY活動報告の様子

第33回全国高等専門学校プログラミングコンテスト

第33回の全国高専プロコンについてのご報告

プロコン同好会顧問
鈴木康人

2022年度の第33回全国高等専門学校プログラミングコンテスト（以降、高専プロコン）は群馬高専が主管校となり10月15日、16日に高崎市のGメッセ群馬にて開催されました。3年ぶりの対面開催です。

高専プロコンの本大会へ出場するためには、書類審査のみの予選会を突破しなくてはなりません。高専プロコンは指定されたテーマに沿ったコンピュータシステムを開発する課題部門、最近注目されている技術を意識しながら自由にテーマを選んでコンピュータシステムを開発する自由部門、コンピュータが苦手とする総当たりの処理が必要となること多い競技部門の三つの部門でエントリーできます。本年度、本校は競技部門と自由部門の予選を突破することができました。ただ、残念なことに

自由部門では開発が間に合わず、今回は直前で出場辞退となりました。

大会の開会冒頭において、本校の総合情報センター長を勤められ、高専プロコンの審査委員長である松澤昭男北陸先端科学技術大学院大学 名誉教授が2022年8月にご逝去されたことのご報告があり、まず、全員で黙祷を捧げでの開会となりました。

群馬県では「上毛かるた」というかるたがあることはご存知の方もいらっしゃると思います。今年の競技部門では、上毛かるたの読み上げ音声の一部を複数枚同時に読み上げたデータから、どの札が読み上げられたのかを当てるといった競技が開催されました。

本校は予選リーグ4位以上勝ち抜きの中で5位、敗者復活戦では2位以上勝ち抜きで3位という成績でおわり、決勝戦進出は果たせませんでした。本校は読み上げ音声の開始が一斉に揃っているアルゴリズムを準備したのですが、読み上げ開始音声は一斉ではない場合がほとんどで読み上げ札が確認できなかったという次第でした。

来年度は福井県越前市での開催となります。この経験を基に、来年度はより、よい成果をあげてもらいたいと期待しているところです。

高専プロコンを経て得られた成長

プロコン同好会副会長 機械工学科3年
遠藤大祐

本年度の全国高専プログラミングコンテスト（高専プロコン）は、群馬高専が主幹校となり、2年ぶりに現地で開催されました。本同好会からは自由部門で1チーム、競技部門で1チームが出場しました。競技部門は昨年度に続き、2年連続の全国大会出場となりました。競技部門には全国から44高専（海外高専を含めると48高専）が参加し、激しい戦いが繰り広げられました。

競技部門とは、人が解くのが難しい問題に対して、コンピューターを使って問題を解決するプログラムを作成する部門です。今回の大会では、かるたの読み札が複数同時に読み上げられ、その音声を解析し、適切な取り札

を推定する問題が与えられました。私たちのチームは、Pythonというプログラミング言語を使って問題解決に取り組みました。私たちは読み上げられた音声を「複数の音声が重なった波」として捉え、重なった音声から個々の読み札の音声に分離することを試みました。音響技術がご専門である矢入先生からのご指導を受け、十分に機能するプログラムを作成することができました。

しかしながら、対戦相手となる他高専の技術力も非常に高く、初戦敗退の結果になりました。しかし、今回の全国大会に出場することで、チームで協力して開発に取り組むという経験や、他高専の手法を学ぶことができ、結果として個々の技術力だけでなく、チームとしての技術力も磨くことができました。今回大会の経験を活かし、次回大会ではより良い成績を残せるよう、チーム一丸となりプログラミングスキルの向上に努めていきたいと思っています。

ロボットコンテスト2022

技術継承とチャレンジの繰り返し ～ロボコン部の挑戦は続く～

ロボコン部顧問 電子制御工学科
青木悠祐

日頃よりロボコン部の活動へのご理解とご声援をありがとうございます。第35回アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2022東海北陸地区大会が3年ぶりに現地開催となり、AGF鈴鹿体育館（三重県鈴鹿市）にて開催されました。今年度の競技課題は、「ミラクル☆フライ～空へ舞いあがれ！～」、ロボットによる紙飛行機飛ばしです。本大会は3年ぶりに対戦型競技となりました。

沼津高専からはAチーム「三ツ矢サンダー（ミツヤサンダー）」、Bチーム「ペーパードライバ」の2チームが参加しました。結果として、両チームとも予選リーグ1勝1敗となり、決勝トーナメントには進出できませんでしたが、Aチーム「三ツ矢サンダー」が特別賞（ローム賞）を、Bチーム「ペーパードライバ」が特別賞（HONDA賞）を受賞しました。残念ながら3年連続の全国大会出場とはなりませんでした。

3年生8名で臨んだAチームは紙飛行機をすくい上げるアームの構造に注目していただきました。学校にて大会直前まで試行錯誤を繰り返し、機構設計を繰り返し変更しながら最後まで調整していましたが、その努力が面白い飛ばし方につながり、特別賞として評価していただいたことに学生たちも達成感を感じています。4年生が主体となったBチーム「ペーパードライバ」はテストラ

ンや試走にて注目してもらいました。連続発射できるユニットと、確実に発射するユニットの2つを用いた点を評価していただきましたが、安定した飛行がなかなか実現できず、得点獲得につながりませんでした。1試合目で回路のトラブルが起これ、動かせない状況の中、諦めずに直して試合を再開できた点、2試合目では全ての動作を見せることができた点から特別賞につながりました。競技形式のルールにはまだまだ弱い点が多い本校のロボコン部ですが、着実に技術を継承し、できることを増やしてきています。今後ともロボコン部の活動へのご理解と部員達へのご声援をよろしくお願いいたします。



後悔を糧に

ロボコン部部长 電子制御工学科3年
渡 邊 巧 真

今年の沼津高専ロボコン部は、2022年度高専ロボコンに出場し3年生主体のAチームが製作した「三矢サンダー」が特別賞（ローム株式会社）、4年生と2年生が主体のBチームの「ペーパードライバ」が特別賞（本田技研工業株式会社）を受賞しました。

今年度のロボコンのテーマは「ミラクル☆フライ～空へ舞い上がれ！～」です。コロナの影響で長らく開催できていなかった競技型のロボコンで、自作した紙飛行機を飛ばし、台や筒に置き入れた紙飛行機の数点数化し競うといった内容でした。

まずAチーム「三矢サンダー」は、一個一個正確に紙飛行機を飛ばすため左右に一つずつある射出と装填を併設した機構を用いました。これにより狙ったポイントへの確に紙飛行機を射出することができました。続いてB

チーム「ペーパードライバ」は、異なる二つの射出機構を用いて連射をして台の上を狙う機構と小さな射出機構を複数搭載して狙ったポイントに落とす機構を用いて速いペースで紙飛行機を狙って射出しました。またこの機体の特出すべき点は装填が速く簡単な点です。あらかじめ紙飛行機が入った装填パーツをセットするだけ装填でき、無駄のない射出を実現させました。

昨年度までと違い3年生以下の学生にとっては初となる競技型のロボコンでなれないことも多く、当初の予定どおりに製作が進まない、報連相の欠如によって情報が食い違う、等チーム内で様々な問題に直面しながらなんとか両チームともロボットを完成させることができました。また、両チームとも特別賞を受賞することができました。しかし、当初の想定通りのロボットはできず、決勝トーナメント進出もはたせず悔しい思いが残りました。また一昨年、昨年度に続き全国大会に出場し結果を残すことは叶いませんでした。期待して応援して下さった皆さんありがとうございました。これからもロボコン部は精進し続けます。

留学生から

新生活の始まり

電気電子工学科3年
イザトゥル インシラー ビンティ イスハク

皆さん、初めまして。マレーシアから参りましたイザトゥル インシラーと申します。いつもザトゥルと呼ばれています。私は小さい頃から日本のことに深い興味を持っていたので、日本に留学する機会を与えられた時はとても喜んでいました。

2020年7月にマレーシアの日本学校に入って、日本語を勉強し始めました。その前は日本語が全然分からなかったもので、私には日本語を勉強するのはすごく難しかったです。また、新型コロナウイルスの影響で、2年間ずっと授業が遠隔になり、授業がもっと大変に感じていました。時々諦めたくなくなりましたが、日本に本当に行きたいので、一生懸命に日本語を勉強しました。しばらくして、日本語はそれほど難しくないと感じ始め、だんだん好きになりました。

2022年3月に日本に来る予定でしたが、コロナウイルスの感染のため、日本の国境を閉じられ、日本に来ることができなくなりました。2ヶ月間ぐらい授業の動画を見て、Teamsを使用して、課題を提出して行う授業が続きました。クラスメートと直接会えなくて、友達と話すチャンスもないし、本当に寂しかったです。先生の話の

スピードにまだ慣れていなくて、他のクラスメートと比べて専門科目でまだ習っていないことがたくさんあるため、最初の授業は全然分からなかったです。マレーシアで遠隔授業を受けていた時、いつ日本に行けるかよく心配していました。できるだけ日本に早く行って、クラスメートと一緒に対面授業を受けたかったです。

ついに、5月21日に日本に来ました。東京で4日間隔離して、沼津高専に来て、やっと友達と出会えて、一緒に勉強して、とてもうれしかったです。日本に来たばかりで、困ったことがたくさんありましたが、友人や先輩方のおかげで、沼津高専での生活がだんだん慣れてきて、大きな悩みもなく過ごしています。そして、授業が分からなかったときにも、先生方が詳しく説明してくださって本当にありがたいです。

今まで沼津高専で過ごしてきたこの7か月間は身の周りの人々の親切さに体も心も温められたように感じて、本当に感謝しています。これからまだ2年の高専生活があるので、もっと思い出を作りたいと思います。どうぞよろしくお祈りします。

学生会活動について

今年度の振り返り

学生会長 電子制御工学科4年
杉浦 いぶき

今年度の学生会活動は次年度以降のための土台作りを意識して活動をしていきました。年間の活動としては、年度初めの学生会主催の部活動紹介に始まり、前後期学生総会、壮行会、中学生向け学校紹介の学生会ブースの運営、昨年度からスタートした傘のレンタル企画など、その他にもさまざまな活動をしてきました。

今年度からの新しい試みとして始めたことは、Teams、各教室に設置されているデジタルサイネージの活用でした。学生会として昨年度まで発行していた機関誌の作成を停止し、学生会からの告知がある際はTeamsからの連絡、そしてデジタルサイネージを使うことで紙の使用や告知の掲示にかかる労力の削減を図りました。結果的に

機関誌の廃止は学生会の活動の場が減るということが分かったため、学生に学生会の活動を知ってもらうための場をまた新しい形で考えていきたいです。

そして、今年度はありがたいことに、学生会役員を増員することができました。下級生の参加を積極的に認め、早い段階で学生会活動に関わり自分が学生会長の代となったときに学校のために何ができるかをイメージしてもらいたかったからです。ただ、学生会役員になるだけではなく、学生会のイベント一つに学年問わず一人の学生会役員が担当するという形にすることで、全員が学生会活動に関わることができました。

今年度の活動に協力してくれた学生会役員みんなには感謝でいっぱいです。その他にも、評議委員会、選挙管理委員会、高専祭実行委員、体育祭実行委員、部活動など多くの学生に関わっていただきました。ありがとうございました。来年度も頼もしい学生会役員がいるので、ご期待ください。

退職教職員から



明るい未来を

機械工学科
井上 聡

私は本校機械工学科を43年前に卒業し、その4年後から本校に奉職しました。思い返せば私が学生のみなさんから教わること学ぶことの方が多かった39年であったと思います。辛抱が足りずわがままな私とお付き合いいただいた卒業生、学生、保護者の皆様には、定年を迎えるにあたり改めて厚く感謝と御礼を申し上げます。

お別れにあたり思い出や回顧よりも明るい話題をと思ったところ、それは自分が成し得なかったことあるいは出来なかったことを若いみなさんに託すものになりそうです。

この半世紀で世界は大きく変わりました。かつては思ってもいなかった技術も現実のものとなっています。それではここから50年後—みなさんが今の私くらいまで時を重ねたころ—はどのような世の中になっているでしょうか。どのような技術が実現されているでしょうか。みなさんは想像できるでしょうか。みなさんはどのような人生を歩んでいるでしょうか。思い描いてみてください。

古今東西を問わず万人が羨む若人の特権と魅力は「時

間」と「可能性」でしょう。人の一生を1日24時間に例えるならばみなさんのいまは夜明け前の4～5時くらいでしょうか。時間はたっぷりあります。そして夢と希望があるところには限りない可能性があるはずですよ。若いみなさんだけがもつ財産と、自分の心と身体を大切にしていって明るい未来を拓いてほしいと思います。

明日は何があるかわからないから楽しい。

明日には希望がある。

みなさんの豊かな人生を願ってやみません。





退職のごあいさつ

電子制御工学科

熊谷 雅 美

高専間交流により沼津高専にお世話になって以来、あと少しで2年となります。この3月末で定年退職することとなりました。本校の前は、本州最北の高専である八戸高専に7年間、その前には日本電信電話株式会社（以下NTT）に30年間（内、電電公社が1年）勤めておりました。NTTでは、最初に武蔵野電気通信研究所の材料物性基礎研究部（改組により現在は物性科学基礎研究所）に配属となり、その後もほとんどの期間半導体材料の光学的性質に関する基礎研究をやってきました。企業はコスト意識が高いため比較的雑用は少なく、予算も潤沢なので、研究をするにはいい環境で、また外部機関との連携の自由度も高く、東大、京都工繊大、北大、筑波大、Illinois大などの研究機関と共同研究を進めることができ

ました。

八戸高専の電気情報工学コース（八戸高専は1学科4コース制で、沼津における“学科”が八戸の“コース”に相当）に着任してからは、仕事内容は大きく変化し、授業準備に加え、さまざまな校務に追われることとなりました。

八戸から沼津に移動して感じたことは、高専間でいろいろな違いです。両高専で就職担当を務めてきましたが、沼津では地元企業への就職希望が八戸の3倍位多いのが特徴的です。これについては、東京、神奈川、愛知などと近い上に、静岡県内に有力な就職先が多いなど、沼津の地の利が効いていると感じました。沼津に来てつらかったのは通勤です。八戸では、学校の敷地内にある職員宿舎にいたため、通勤時間は3分程度だったのが、沼津では自宅から通うことにしたため、片道2時間半程度かかるようになってしまいました（実に50倍です）。それ以外については、教員、職員を問わず多くの方にとてもよくしていただき、快適な2年間を過ごすことができました。この場を借りて御礼申し上げます。2年間大変お世話になりました。



沼津高専で過ごした 30余年

物質工学科

芳野 恭 士

私が本校の教員として奉職したのは、工業化学科が物質工学科に改組された平成元年でした。それから30余年が経ち、今年度定年を無事迎えることができましたことは、ひとえに本校に関係する皆様のおかげと、心から感謝しております。この間、教育から研究まで様々なことに取り組みさせていただきました。まず、本校は富山高専とともに全国で最初に物質工学科への改組を行ったため、最初の頃は本学科の生物系科目の立ち上げに奔走しました。物質工学科の一期生が卒業するころには、新たに専攻科の新設や校内のインターネットの整備といった課題が出てきて、その後も外部機関による学校評価が始まったり技能五輪が開催されたりと、様々なことがめまぐるしく起こった30年間だったと感じています。一方、部活動では27年間弓道部の顧問を務めた後、茶道同好会や合唱同好会の顧問となりました。私自身は文科系の部活動にしか所属したことがなかったため、弓道部の顧問には積極的に取り組もうと、顧問になって4年目に段位を取ってその頃の部員たちと一緒に弓を引いていたことを懐かしく思い出します。また、平成6年頃から現在まで続けていることですが、周りの自治体や商工会議所等の団体のイベントにおける本校ブースの出展要請に、できるだけ応えるようにしてきました。高専という学校制度は、

現在でもまだまだ地域の皆様十分に周知されているわけではなく、今年度参加したイベントでも「沼津高専の詳しいことを初めて知った」という声を地域の方々からお聞きしました。今後も、本校が地域に理解され地域とともに活動されていくことが大切と感じています。さて、高専の特徴は何と言っても高校一年生の年齢という早期から専門分野を学んでいくことにあります。大学生に比較すると年齢が若いので、その教育にはより多くの力を注がなくてはなりません、その分将来の伸びしろは大きいと感じます。私の研究室だけでも今年度までに延べ143名の本科生と延べ27名の専攻科生が卒業・修了し、我が国の主要な企業や大学等で活躍してくれていることは、私が教員・研究者として活動する上での心の励みでありまた支えでもあります。一時は大学に移って研究を行うかこのまま高専で研究を続けるかを迷った時もありましたが、高専ではより産業の現場に近いテーマを扱うことが多いという魅力もあり、今は高専で教育と研究を続けてきて本当によかったと思っています。今年度は本校創立60周年という節目の年ですが、今後も社会の変化に対応しつつ、本校が私たちの生活を支える技術者を育成するという使命を果たされ続けることを祈念しております。

卒業生・修了生から

貪欲に勉強を！

制御情報工学科5年
岡本 瞬

高専生活は瞬く間に過ぎて行って、もう卒業するという実感があまり湧きません。例えば5年前の高専の推薦入試の面接で、「AIに感情はあると思いますか」と聞かれ自信満々に「機械なので感情はないと思います」と答えた記憶だけは、鮮明に覚えています。因みに最新の研究ではAIは感情を持つ可能性が示唆されているそうで、中学時代の私の考えは甘かったようです。そんな私も5年生になり研究室に配属されると、近年流行りのAIに興味を持ちそれを活用した卒業研究のテーマに決めました。興味のある分野の研究ができて充実しています。

高専に入学した直後と比べて、今の私はかなり成長したように感じます。授業や研究を通して専門的な知識を身につけたという自負も勿論ありますが、それ以上に志

が変わったように思います。驕りもなく慢心もなく新しいことを貪欲に勉強する姿勢が、5年間で磨かれた強みであると自信を持てるようになりました。入学したての私は、今思い返すと恥ずかしくなるような尖った全能感を持っていました。しかし、私のそういった稚拙な価値観は、すぐに打ち砕かれました。高専で本当に謙虚で現状に甘んじることなくストイックに勉強を継続している優秀な学生に出会ったからです。また人格の面でも優れていて、寛大でもあり親切でもあり、それでいて知的なユーモアさも兼ね備えていて、尊敬できる場所が多くありました。私もこの人たちのようになりたいと強く思いました。それから私はまず勉強習慣を改めました。課題や試験勉強だけではなく、自学自習を行うようになりました。そういった変化が功を奏したのか、希望の大学に合格することもできました。大学に編入後も、高専生活で培った貪欲さを糧に更に成長していきたいと思っています。

最後になりますが、高専生活でお世話になった皆様、本当にありがとうございました。

高専への編入

物質工学科5年
加納 匠

私は、二年前の春、本校物質工学科に4年次編入しました。私が高専への編入学に至ったきっかけは、高校三年生の進路選択に悩んでいた際に、当時の担任に高専を勧められたこともあり、座学よりも実験・実習が豊富な高専に編入しようと考えようになったことでした。その後、無事編入学試験に合格することができましたが、いきなり第一の壁にぶつかることになりました。それは、出身である工業高校での学習範囲と高専での学習範囲との間にギャップが存在することでした。特に数学には、かなりの差があり戸惑いましたが、高専側から事前に課された課題とは別に自学自習を行うことで、なんとかスタート地点に立つことができたのでした。そして編入学後、初めて新たなクラスメイトと対面した際、自己紹介も兼ねて挨拶をしたのですが、皆からの反応があまり芳しくなく、ここでも少し気後れしてしまいました。高専生活が始まって数ヶ月経ち、高専で初めての試験がありましたが、やはり今まで通りの勉強量では足りず、納得のいく結果は得られなかったのです。そこで、何人かの友人と共に勉強をし、互いに得意な分野を教えあう形での学習を試みました。すると、みるみるうちに成績が伸び…というわけにもいかず、余分な話などで盛り上がっ

てしまって結局のところほとんど学習が進まなかったのです。しかしながら友人と楽しい時間を共有できたことは、ある意味で有意義であったように感じています。はじめは不慣れな部分がありながらもいつの間にか高専の雰囲気にも馴染み、忙しくも楽しい高専生活を送れるようになってきましたが、気づいたら卒業が目前に迫ってきました。残り少ない本科での高専生活を、悔いのないように全力で走り切りたいと思います。

また、様々な場面でご尽力いただき、私を支えてくださった物質工学科の教員の方々にも、この場を借りて感謝の意を表したいと思います。本当にありがとうございました。



専攻科での成長

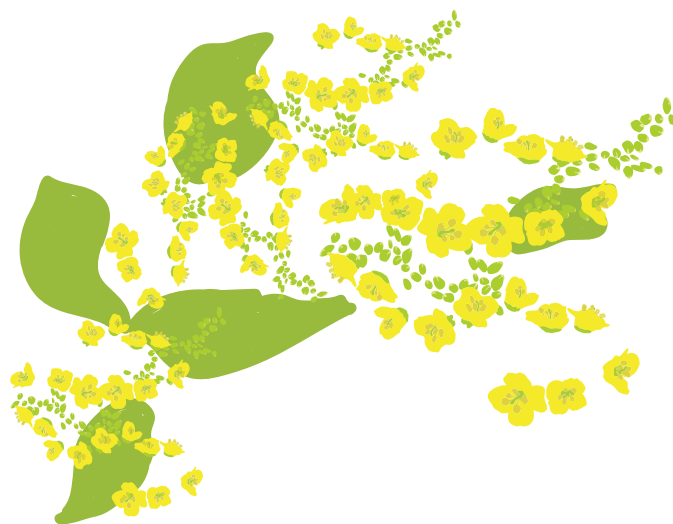
医療福祉機器開発工学コース2年

岩崎 竜星

本科を卒業し、専攻科に入学してから早くも2年の月日が経ち高専から巣立つときとなりました。専攻科での2年間はとても充実したものになりました、所属していた医療福祉機器開発工学コースでは機械工学や電気電子工学、情報工学と解剖生理学や医用生体工学等々の医用工学の融合した分野の医療機器工学などを主に学習してきました。専攻科では本科時に学習した内容の復習や応用で多くの知識を得ることができました。輪講やスライド発表などアウトプットの機会が多く、知識の定着につながりました。この2年間で一番記憶に残っていることが専攻科実験です。本コースでは外部の団体の方々との共同実験になっていて、我々は小児がんの子供達向けのホスピタルプレイを考えました。ホスピタルプレイとは

医学的な治療を受ける子供達に必要な不可欠である子供ならではの遊びの活動です。この遊びを考えるという内容でした。単に遊びを考えるというだけではなく、一つのビジネスモデルとしてプロセスを大切に商品としての価値を持たせるといった内容です。アイデアを具現化することも大事ではあるが、決められた予算・期間の中で工数を設定し仕上げることも大事であるといった実社会に近い体験ができました。半年間の短い期間でしたが、グループで密な連絡を取り一つの商品を仕上げることができました。フィードバックをもらったときにはリアルな声が届き、商品開発の難しさや製作者とユーザーの認識の相違などを感じることができました。座学でも学内の実験でも体験することがないもので、社会の一員になることへの決意にもなりました。

高専に入学してから7年、多くのことがありました。多くの友人や教職員の方々に支えられてここまで来ることができました。お世話になった方々には感謝してもきれません。社会に出て、世に貢献し恩返しさせてください。本当にありがとうございました。



学生の研究活動 (2022.4.1~2023.3.31)

論文発表

(学生が第二著者等であってもすべて記載。賞を受賞している場合は、その名称を発表題名の後に赤字で記載。)

| 学科 | 著者名 (共著含) (筆頭著者に○) | 論文誌名、巻号(年)頁 | 論文題名 | 指導教員 | 備考 |
|-----|--|--|---|-------|----|
| MC2 | ○ Ryodai KATO (加藤亮大), Takeshi HOSHIKAWA, Takaaki SUGIMOTO, Shizuo SUZUKI | Eco-Engineering, 35(1) (2023) 25-32 | Model validation for stand timber volume in plantation forests using the airborne LiDAR open data of Shizuoka Prefecture | 鈴木 静男 | |
| EC2 | Masataka Kato, Tomokatsu Ohsawa, and Syuta Honda | J. Phys. D: Appl. Phys. 55 (2022) 475002 (7pp) | Design of a novel bilayered structure of ferromagnetic metal and nonmagnetic insulator wires while maintaining the distance between the constituent skyrmions | 大澤 友克 | |

講演発表

(学会名ごとに並べる。登壇者が学生の場合又はそれに相当する場合のみ記す。講演論文が4頁程度であっても講演発表に含める。賞を受賞している場合は、その名称を発表題名の後に赤字で記載。)

Laser Solutions for Space and the Earth 2022, OPTICS & PHOTONICS International Congress リモート/2022.4.21

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名 | 指導教員 |
|-------|--------|--|-------|
| MC2 | 加藤 亮 大 | Forest trunk biomass estimation by airborne laser scanning | 鈴木 静男 |

ロボティクス・メカトロニクス 講演会 2022 in Sapporo SORA 札幌コンベンションセンター/2022.6.1-4

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名 | 指導教員 |
|-------|---------|-------------------------------------|--------|
| MC2 | 岩 崎 竜 星 | 超音波診断支援ロボットによる協調診断のための可操作度に基づく運動学解析 | 青木 悠 祐 |
| MC2 | 岩 城 伶 | 生体信号解析に基づく人とロボットの協調検査時の疲労評価 | 青木 悠 祐 |
| MC1 | 齋 藤 達 志 | 診断環境と患者体型を考慮した超音波診断支援ロボットシステムの構築 | 青木 悠 祐 |

電気学会モータドライブ/回転機/自動車合同研究会 電気学会会議室およびWEB (東京都千代田区) /2022.6.9

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名 (共同研究者名) | 指導教員 |
|-------|-------|--|------|
| EC2 | 林 直 哉 | IPMSMの最大トルク制御座標系における位相分解能の検討 (野村袖衣子、大沼巧) | 大沼 巧 |

電気学会 産業応用部門大会 上智大学/2022.8.30-9.1

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名 | 指導教員 |
|-----------|----------------|------------------------------------|------|
| EC2 D5 | 林 直 哉 眞 野 翔 | IPMSMの最大トルク制御座標系の全駆動領域における位相測定法の検討 | 大沼 巧 |

第18回TRIZシンポジウム オンライン/2022.9.1-2

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名 (共同研究者名) | 指導教員 |
|-------|---------|---|--------|
| D3 | 肥 田 友 希 | TRIZを武器に駿河湾の魅力を発信 (あなたにとって最も良かった発表賞) | 大津 孝 佳 |
| E3 | 渡 邊 竣 | | |
| D3 | 上 野 晴 瑚 | | |
| D3 | 長 岡 さゆり | | |
| C3 | 岩 田 みなみ | | |
| C3 | 北 村 天 | | |
| C3 | 関 野 萌 衣 | | |
| E2 | 藤 江 優 光 | | |
| M2 | 小 川 隼 輝 | | |

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名 (共同研究者名) | 指導教員 |
|-------|--------|---|------|
| M2 | 小林 聖 | TRIZを武器に駿河湾の魅力を発信 (あなたにとって最も良かった発表賞) | 大津孝佳 |
| M2 | 眞保 愛 | | |
| C2 | 進土 野々香 | | |
| E4 | 望月 倫 | | |
| E4 | 鈴木 悠矢 | | |

第71回高分子討論会

北海道大学 札幌キャンパス/2022.9.5-7

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名 (共同研究者名) | 指導教員 |
|-------|-------|---|------|
| AC2 | 久我 五葉 | 精密濾過膜を用いた天然ゴムラテックスの脱タンパク質化プロセス (久保小拍、鶴橋佳乃、長田真菜、青山陽子) | 青山陽子 |
| AC2 | 佐野 藍子 | 天然ゴム由来 cis-1, 4-polyisoprene の化学修飾と架橋反応 (清水亮太、道端遥香、深澤元喜、青山陽子) | 青山陽子 |

第93回日本動物学会全国大会

早稲田大学/2022.9.8-10

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名 (共同研究者名) | 指導教員 |
|-------|--------|------------------------------------|------|
| C3 | 関野 萌衣 | オオグソクムシの交替性転向反応の行動観察と解析 (ポスター賞) | 大津孝佳 |
| C1 | 森田 翔 | | |
| C3 | 北村 天 | | |
| C3 | 岩田 みなみ | | |
| D3 | 肥田 友希 | | |
| E3 | 渡邊 竣 | | |
| D3 | 上野 晴瑚 | | |
| E1 | 小林 未来翔 | | |
| E1 | 杉山 大登 | | |
| E1 | 竹嶋 佑星 | | |
| D1 | 井出 基博 | オオグソクムシの交替性転向反応と逃避行動 (ポスター賞) | 大津孝佳 |
| C3 | 北村 天 | | |
| C3 | 岩田 みなみ | | |
| C3 | 関野 萌衣 | | |
| D3 | 肥田 友希 | | |
| E3 | 渡邊 竣 | | |
| D3 | 上野 晴瑚 | | |
| E1 | 宮島 昊誠 | | |
| E1 | 釧持 歩夢 | | |
| S1 | 眞野 水綺 | | |
| D1 | 豊田 遥矢 | 駿河湾の深海調査から船上教育プログラム制作へ (ポスター賞) | 大津孝佳 |
| D1 | 樽林 空汰 | | |
| E1 | 山本 琳太郎 | | |
| D3 | 肥田 友希 | | |
| M2 | 小川 隼輝 | | |
| E4 | 望月 倫 | | |
| E3 | 渡邊 竣 | | |
| D3 | 岩田 みなみ | | |
| D3 | 北村 天 | | |
| D3 | 関野 萌衣 | | |
| C2 | 前田 湊斗 | | |
| E1 | 荒木 一究 | | |
| E1 | 奥平和 哲 | | |
| E1 | 山口 敦郎 | | |
| C1 | 岩田 凌旺 | | |

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名 (共同研究者名) | 指導教員 |
|-------|-----------|--------------------------------------|------|
| E3 | 渡 邊 竣 | 駿河湾3Dモデルを用いた深海地形とマリンスノー蓄積 (ポスター賞) | 大津孝佳 |
| E1 | 杉 山 大 登 | | |
| E4 | 鈴 木 悠 矢 | | |
| D3 | 肥 田 友 希 | | |
| C3 | 岩 田 みなみ | | |
| C3 | 北 村 天 | | |
| C3 | 関 野 萌 衣 | | |
| E3 | 藤 江 優 光 | | |
| E2 | 酒 井 正 信 | | |
| E1 | 武 田 倫 太 郎 | | |
| E1 | 成 川 諒 | | |
| E1 | 鈴 木 大 智 | | |
| E2 | 藤 江 優 光 | | |
| E2 | 伊 藤 ミモザ | | |
| E1 | 奥 平 和 哲 | | |
| D3 | 長 岡 さゆり | | |
| D3 | 肥 田 友 希 | | |
| E3 | 渡 邊 竣 | | |
| E2 | 村 松 慧 思 | | |
| E1 | 酒 井 奏 | | |
| M1 | 松 井 香菜子 | | |
| E1 | 宮 島 昊 誠 | | |
| C1 | 森 田 翔 | | |

日本分析化学会第71年会
岡山大学/2022.9.14

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名 (共同研究者名) | 指導教員 |
|-------|---------|---|---------|
| AC1 | 伊 井 ひなた | 水溶性d ⁸ 遷移金属-1, 2-フェニレンジアミン誘導体錯体の合成および近赤外吸収特性と活性酸素発生能調査 | 藁 科 知 之 |
| AC1 | 小 柳 ま い | 加水分解反応前後のMg板表面の顕微ラマン分光測定 | 藁 科 知 之 |

日本機械学会2022年度年次大会
富山大学 (五福キャンパス) /2022.9.22

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名 (共同研究者名) | 指導教員 |
|-------|-----------|---|-------|
| MC2 | 石 田 遼 太 郎 | 環境試験器における温湿度制御手法の検討 (馬場勝人) | 三谷祐一郎 |
| AC2 | 後 藤 健 | 電磁石を用いた非接触搬送における鉛直方向の搬送性能向上の検討 (鈴木涼太、小林義光、上泰) | 三谷祐一郎 |

第32回 RCJ信頼性シンポジウム
大田区産業プラザ/2022.10.26-27

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名 (共同研究者名) | 指導教員 |
|-------|---------|---------------------------|------|
| EC1 | 位 田 直 弥 | 超高感度紫外線カメラを用いたコロナ放電現象の可視化 | 大津孝佳 |
| E5 | 大 畑 怜 央 | | |
| E5 | 加 藤 大 斗 | | |
| E5 | 出 田 一 稀 | | |

富士・箱根・伊豆 国際学会 2022 FHIXフォーラム IN 沼津
プラサヴェルデ (静岡県沼津市) /2022.11.12

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名 (共同研究者名) | 指導教員 |
|-------|---------|---|------|
| D5 | 武 藏 奏 汰 | 空中写真を用いた機械学習による管理・非管理茶園の抽出 (ポスター発表優秀賞) | 鈴木静男 |

The 7th International Conference on "Science of Technology Innovation" 2022
 長岡技術科学大学/2022.11.18

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名 (共同研究者名) | 指導教員 |
|-------|---------------------------------|--|------|
| C5 | 大野藍丸 小林姫美花 小松伊吹帆 小勝呂華帆 | Syntheses and characterization of d ⁸ transition metal complexes for photodynamic therapy of cancer (K. Ohnuma) | 藁科知之 |

計測自動制御学会 中部支部 若手研究発表会2022
 名古屋大学 東山キャンパス/2022.11.24

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名 (共同研究者名) | 指導教員 |
|-------|------|--------------------------------------|-------|
| AC1 | 鈴木涼太 | IoT予知保全システムにおける6系統交流電流測定端末の開発 (馬場勝人) | 三谷祐一郎 |

富士学会2022年秋季学術大会
 リモート/2022.11.27

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名 (共同研究者名) | 指導教員 |
|-------|------|--|--------------|
| D5 | 山口卓人 | ソーラーシェアリング (営農型太陽光発電) に向けたIoTセンサのキャリブレーション | 鈴木静男 青木悠祐 |
| D5 | 渡辺裕紀 | 物体検出と文字認識を適用した古文書の画像解析 —伊豆地域における予備的調査— | 鈴木静男 |

第17回 静岡県東部テクノフォーラムin沼津高専
 沼津高専/2022.11.28

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名 (共同研究者名) | 指導教員 |
|-------|-------|---|-------|
| AC1 | 伊井ひなた | 水溶性d8遷移金属-1,2-フェニレンジアミン誘導体錯体の合成および近赤外吸収特性と活性酸素発生能調査 | 藁科知之 |
| AC1 | 小柳まい | 加水分解反応前後のMg板表面の顕微ラマン分光測定 | 藁科知之 |
| EC2 | 阿形明音 | 魚類肝臓中のシステインからの硫化水素産生に関する研究 | 後藤孝信 |
| EC2 | 家登正堯 | スキルミオンを用いたレーストラックメモリの構造設計と熱効果 | 大澤友克 |
| EC2 | 高久直也 | 味覚嫌悪学習の訓練及び獲得評価の機械化の試み | 小谷進 |
| EC2 | 中村敏渡 | 最大トルク制御座標 (f-t軸) を用いた同期モータの電流制御系 | 大沼巧 |
| AC2 | 林直哉 | | |
| AC2 | 加賀美丞 | アカザカズラ葉エキスに含まれる保健成分に関する研究 | 芳野恭士 |
| AC2 | 坂間秀剛 | 香煎茶の保険作用に関する研究 | 芳野恭士 |
| AC2 | 谷口洲五 | 茶樹の培養状態における遺伝子発現解析 —植物の全能性理解に情報科学を利用する— | 古川一実 |
| AC2 | 長井是親 | 交通モニタリングシステムの開発 | 鄭萬溶 |
| MC2 | 石田遼太郎 | 環境試験器のモデリングおよびMPCによる温湿度同時制御 | 三谷祐一郎 |
| MC2 | 伊藤壮汰 | 香川研究室：人とロボットとのインタラクションデザイン研究について | 香川真人 |
| MC2 | 青島千恵理 | 沼津高専における植物ゲノム編集への挑戦 —世界で最初の茶樹のゲノム編集を目指して— | 古川一実 |
| MC2 | 酒井燈 | 顔画像による運動者の脈拍数推定 | 小谷進 |

2022年日本農業気象学会東海・北陸支部, 生態工学会中部支部 合同支部大会
 リモート/2022.12.7

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名 (共同研究者名) | 指導教員 |
|-------|------|-----------------------------------|------|
| MC2 | 加藤亮大 | 静岡県オープンLiDARデータを用いた人工林の林分材積モデルの検証 | 鈴木静男 |

超異分野学会豊橋フォーラム2022
 豊橋サイエンスコア/2022.12.17

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名 (共同研究者名) | 指導教員 |
|-------|------|------------------|------|
| MC2 | 勝又勇紀 | トマトの収穫量予測システムの構築 | 鄭萬溶 |

日本育種学会第29回中部地区談話会
三重大学生物資源学部（オンライン）／2022.12.17

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名（共同研究者名） | 指導教員 |
|-------|--------|---|------|
| C5 | 相原 ちあき | チャ (<i>Camellia sinensis</i>) におけるツバキ (<i>C. japonica</i>) 反復配列モチーフの検出およびFluorescence <i>in situ</i> hybridizationプローブとしての利用 (古川一実) | 古川一実 |
| MC2 | 青島 千恵理 | CsPDS遺伝子のノックアウトをモデルとしたチャゲノム編集の条件検討 (望月秀斗・古川一実) | 古川一実 |
| AC2 | 谷口 洲五 | チャ (茶樹: <i>Camellia sinensis</i>) 二次胚形成因子の探索 (稲葉蒼一郎・山下寛人・一家崇志・古川一実) | 古川一実 |

第28回高専シンポジウム in Yonago
米子コンベンションセンターBiGSHiP／2023.1.28

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名（共同研究者名） | 指導教員 |
|----------|-------|---|-------|
| M5 | 木戸 俊介 | 感圧ラバーの積層枚数と加圧方法の違いによる応答性の調査 (上泰) | 三谷祐一朗 |
| M5 | 中川 修斗 | 市販の電磁石およびホール素子を用いた自律同定による浮上系の安定性の検証 (小林義光、上泰) | 三谷祐一朗 |
| AC2 (EC) | 網川 行生 | 患者の動向監視支援システムの開発—ベッド柵周辺の危険検出— | 藤尾三紀夫 |
| S5 | 岡本 瞬 | 患者の動向監視支援システムの開発—状態判別への機械学習の適用— | 藤尾三紀夫 |
| C5 | 大友 思惟 | Raman分光法による希土類酸化物を含有するアルカリホウ酸塩ガラスの構造の研究 | 大川政志 |
| C5 | 小林 剛 | Raman分光法による希土類を含有するカルシウムリン酸塩ガラスの構造の研究 | 大川政志 |

第28回高専シンポジウム in Yonago
米子コンベンションセンター BiGSHiP（オンライン発表）／2023.1.29

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名（共同研究者名） | 指導教員 |
|-------|----------------|--|------|
| D5 | 草茅 新太 陣内 康輔 | ロボカップJr.サッカーオープンリーグにおける画像処理を用いた機体の開発 | 川上 誠 |
| D5 | 小林 拓馬 | ロボカップJr.レスキュー競技における新ルールに適応したビギナーズ教材の開発 | 川上 誠 |

自然環境復元学会第23回全国大会（研究発表会）
日本大学理工学部駿河台キャンパス（東京都千代田区）／2023.2.17

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名（共同研究者名） | 指導教員 |
|-------|-------|-------------------------------|-------|
| MC2 | 加藤 亮大 | 航空LiDARデータを用いた静岡県における林分材積量推定式 | 鈴木 静男 |

The 1st KOSEN Research International Symposium
一橋講堂（東京都千代田区）／2023.3.1-2

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名（共同研究者名） | 指導教員 |
|-------|-------|---|-------|
| D5 | 武藏 奏汰 | Detection and Classification of Managed and Non-managed Tea Gardens with Machine Learning Using Aerial Photographs | 鈴木 静男 |
| AC2 | 後藤 健 | Self-identification and Design Method based on Stability Margin of the Magnetic Levitation Control System to Ensure the Stable Non-contact Conveyance (鈴木涼太、中川修斗、小林義光、上泰) | 三谷祐一朗 |

2023年電子情報通信学会総合大会
芝浦工業大学 大宮キャンパス／2023.3.7-10

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名（共同研究者名） | 指導教員 |
|-------|-------|---|-------|
| S5 | 松本 悦展 | フレーム集約に着目した無線LANスループットの最適化 | 山崎 悟史 |
| S5 | 古木 琢磨 | 無線チャンネル特性を考慮した連合学習ネットワークにおけるユーザ選択法の性能評価 | 山崎 悟史 |

精密工学会第30回「学生会員卒業研究発表講演会」
東京理科大学葛飾キャンパス／2023.3.14

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名（共同研究者名） | 指導教員 |
|-------|------|---------------------------------------|-------|
| S5 | 岡本 瞬 | 患者の動向監視支援システムの開発—機械学習の適用による状態判別の高精度化— | 藤尾三紀夫 |

化学工学会第88年会
東京農工大学 小金井キャンパス/2023.3.15-17

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名 (共同研究者名) | 指導教員 |
|-------|------|--|------|
| C5 | 寺尾大佑 | 新規水平回転円筒ガス化炉におけるガスシール形成機構の検討 (伊藤拓哉) | 伊藤拓哉 |
| C5 | 堀池拓真 | 木質バイオマスの直接液化機構への樹種の影響 (伊藤拓哉) | 伊藤拓哉 |
| C5 | 山本翔大 | タケガス化プロセスにおけるイオン交換によるカリウム揮発抑制に関する検討 (伊藤拓哉) | 伊藤拓哉 |

日本育種学会第143回講演会
静岡大学静岡キャンパス/2023.3.17-18

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名 (共同研究者名) | 指導教員 |
|-------|-------|--|------|
| MC2 | 青島千恵理 | チャゲノム編集のための不定胚の培養条件およびCsPDSノックアウトの試み (望月秀斗・古川一実) | 古川一実 |
| AC2 | 谷口洲五 | トランスクリプトーム解析を用いたチャ (茶樹: <i>Camellia sinensis</i>) 二次胚形成因子の探索 (稲葉蒼一郎・山下寛人・一家崇志・古川一実) | 古川一実 |

The 11th IIAE International Conference on Industrial Application Engineering 2023 (ICIAE2023)
Tiruru (Okinawa Gender Equality Center), Okinawa/2023.3.26-30

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名 (共同研究者名) | 指導教員 |
|-------|-------|--|-------|
| MC2 | 石田遼太郎 | Design of Temperature and Humidity Control System for Environmental Testing Apparatus (馬場勝人) | 三谷祐一郎 |

120号 補遺

2021年度先進的技術シンポジウム (ATS2021)
豊橋技術科学大学 (オンライン開催) /2022.3.8

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名 (共同研究者名) | 指導教員 |
|-------|------|---|------|
| MC2 | 伊藤壮汰 | 小型見守りロボットシステムの構築とインタラクションデザインの研究 (菊地愛結、加藤祐介、大島直樹、香川真人) 優秀講演賞 | 香川真人 |

※学科略称 (M: 機械工学科、E: 電気電子工学科、D: 電子制御工学科、S: 制御情報工学科、C: 物質工学科、
【専攻科】EC: 環境エネルギー工学コース、AC: 新機能材料工学コース、MC: 医療福祉機器開発工学コース)



令和4年度卒業生・修了生進路先一覧

機械工学科

37名

令和5年2月17日現在

就職先企業

21名

| | |
|----------------------|---|
| NECファシリティーズ株式会社 | 1 |
| NTN株式会社 | 1 |
| SMC株式会社 | 1 |
| アイリスオーヤマ株式会社 | 1 |
| アステラス製薬株式会社 | 1 |
| キャノンエネルギー株式会社 | 1 |
| キャノンメディカルシステムズ株式会社 | 1 |
| サントリープロダクツ株式会社 | 1 |
| スズキ株式会社 | 1 |
| トヨタ自動車東日本株式会社 | 1 |
| ファナック株式会社 | 1 |
| 株式会社ニコン | 1 |
| 株式会社日産オートモーティブテクノロジー | 1 |
| 株式会社エスユーエス | 1 |
| 株式会社オカムラ | 1 |
| 株式会社みらいスタジオ | 1 |
| 株式会社明電舎 | 1 |
| 出光興産株式会社 | 1 |
| 東京電力ホールディングス株式会社 | 1 |
| 日立ジョンソンコントロールズ空調株式会社 | 1 |
| 浜松ホトニクス株式会社 | 1 |

進学（編入学）先大学等

12名

| | |
|---------------|---|
| 岡山大学工学部 | 1 |
| 金沢大学理工学域 | 1 |
| 九州大学工学部 | 1 |
| 長岡技術科学大学工学部 | 1 |
| 東京都立大学都市環境学部 | 1 |
| 東京農工大学工学部 | 1 |
| 豊橋技術科学大学工学部 | 2 |
| 沼津工業高等専門学校専攻科 | 4 |

その他

4名

電気電子工学科

32名

就職先企業

15名

| | |
|--|---|
| Japan Advanced Semiconductor Manufacturing株式会社 | 1 |
| アステラス製薬株式会社 | 1 |
| サントリー株式会社 | 1 |
| ローム浜松株式会社 | 1 |
| 株式会社ヤクルト本社富士裾野工場 | 1 |
| 株式会社ヤマハコーポレートサービス | 1 |
| 株式会社日立ハイテクサイエンス | 1 |
| 株式会社明電エンジニアリング | 1 |
| 株式会社明電舎 | 1 |
| 森トラスト・ビルマネジメント株式会社 | 1 |
| 中外製薬工業株式会社 | 1 |
| 中部電力株式会社 | 1 |
| 東京電力HD株式会社 | 1 |
| 東芝キャリア株式会社 | 1 |
| 浜松ホトニクス株式会社 | 1 |

進学（編入学）先大学等

13名

| | |
|-----------------|---|
| 工学院大学工学部 | 1 |
| 工学院大学情報学部 | 1 |
| 神戸大学理学部 | 1 |
| 筑波大学理工学群 | 3 |
| 長岡技術科学大学工学部 | 1 |
| 山形大学人文社会科学部 | 1 |
| 東京工業大学物質理工学院材料系 | 1 |
| 豊橋技術科学大学工学部 | 2 |
| 沼津工業高等専門学校専攻科 | 2 |

その他

4名

電子制御工学科

37名

就職先企業

13名

| | |
|----------------------|---|
| アイリスオーヤマ株式会社 | 1 |
| コンチネンタル・オートモーティブ株式会社 | 1 |
| シブヤ精機株式会社 | 1 |
| ネクストウェア株式会社 | 1 |
| 株式会社エイジング | 1 |
| 三菱電機エンジニアリング株式会社 | 1 |
| 三菱電機株式会社 | 1 |
| 東京エレクトロン株式会社 | 1 |
| 日本たばこ産業株式会社 | 1 |
| 富士森永乳業株式会社 | 1 |
| 本田技研工業株式会社 | 1 |
| 明電エンジニアリング株式会社 | 1 |
| 矢崎総業株式会社 | 1 |

進学（編入学）先大学等

22名

| | |
|----------------|----|
| 横浜国立大学理工学部 | 1 |
| 九州大学芸術工学部 | 1 |
| 広島大学工学部 | 1 |
| 新潟大学工学部 | 1 |
| 大阪ハイテクノロジー専門学校 | 1 |
| 筑波大学理工学群 | 1 |
| 電気通信大学情報理工学域 | 1 |
| 島根大学総合理工学部 | 1 |
| 東京電機大学未来科学部 | 1 |
| 東京農工大学工学部 | 1 |
| 北海道大学工学部 | 1 |
| 沼津工業高等専門学校専攻科 | 11 |

その他

2名

制御情報工学科

34名

就職先企業

15名

| | |
|----------------------|---|
| NTTコムエンジニアリング株式会社 | 1 |
| アステラス製薬株式会社 | 1 |
| パーパス株式会社 | 1 |
| 株式会社FIXER | 2 |
| 株式会社テクノサイト | 2 |
| 株式会社クリエイティブキャスト | 1 |
| 株式会社まえばー | 1 |
| 京セラコミュニケーションシステム株式会社 | 1 |
| 三栄ハイテックス株式会社 | 1 |
| 三精テクノロジーズ株式会社 | 1 |
| 東芝キャリア株式会社 | 1 |
| 独立行政法人国立印刷局 | 1 |
| 浜松ホトニクス株式会社 | 1 |

進学（編入学）先大学等

17名

| | |
|---------------------|---|
| 九州大学芸術工学部 | 1 |
| 山口大学工学部 | 1 |
| 大阪大学工学部 | 1 |
| 大阪工業大学ロボティクス&デザイン学部 | 1 |
| 筑波大学情報学群 | 1 |
| 筑波大学理工学群 | 1 |
| 電気通信大学情報理工学域 | 1 |
| 東京海洋大学海洋工学部 | 1 |
| 東京大学工学部 | 1 |
| 東北大学工学部 | 1 |
| 京都工芸繊維大学工芸科学部 | 1 |
| 静岡産業技術専門学校 | 1 |
| 福井大学工学部 | 1 |
| 豊橋技術科学大学工学部 | 1 |
| 沼津工業高等専門学校専攻科 | 3 |

その他

2名

物質工学科

35名

就職先企業

11名

| | |
|--------------------|---|
| TANAKAホールディングス株式会社 | 1 |
| コニカミノルタ株式会社 | 1 |
| サントリープロダクツ株式会社 | 1 |
| シミックCMO株式会社 | 2 |
| ユニリーバ・ジャパン株式会社 | 1 |
| 株式会社リコー | 1 |
| 京セラ株式会社 | 1 |
| 三菱ガス化学株式会社 | 1 |
| 太陽ホールディングス株式会社 | 1 |
| 日星電気株式会社 | 1 |

進学（編入学）先大学等

22名

| | |
|---------------|----|
| 京都工芸繊維大学工芸科学部 | 2 |
| 静岡大学農学部 | 1 |
| 新潟大学工学部 | 1 |
| 長岡技術科学大学工学部 | 2 |
| 東京工業大学生命理工学院 | 1 |
| 東京農工大学工学部 | 1 |
| 豊橋技術科学大学工学部 | 1 |
| 沼津工業高等専門学校専攻科 | 13 |

その他

2名

環境エネルギー工学コース

9名

就職先企業

6名

| | |
|------------|---|
| セブンセンス株式会社 | 1 |
| 株式会社タマディック | 1 |
| 株式会社ビサイズ | 1 |
| 三菱電機株式会社 | 1 |
| 東芝キャリア株式会社 | 1 |
| 沼津市役所 | 1 |

進学（編入学）先大学等

2名

| | |
|------------------|---|
| 広島大学大学院総合生命科学研究科 | 1 |
| 大阪大学大学院基礎工学研究科 | 1 |

その他

1名

新機能材料工学コース

10名

就職先企業

6名

| | |
|------------------|---|
| トヨタ自動車東日本株式会社 | 1 |
| ヤマハ株式会社 | 1 |
| 一般財団法人材料科学技術振興財団 | 1 |
| 株式会社日立ハイシステム21 | 1 |
| 株式会社日立ハイテクサイエンス | 1 |
| 森永乳業株式会社 | 1 |

進学（編入学）先大学等

4名

| | |
|--------------------|---|
| 京都工芸繊維大学大学院応用生物学専攻 | 1 |
| 慶応義塾大学大学院理工学研究科 | 1 |
| 沼津工業高等専門学校研究生 | 1 |
| 東京工業大学大学院物質理工学院材料系 | 1 |

医療福祉機器開発工学コース

11名

就職先企業

7名

| | |
|------------------|---|
| ジョンソンコントロールズ株式会社 | 1 |
| スター精密株式会社 | 1 |
| テルモ株式会社 | 1 |
| 静岡県庁 | 1 |
| 東レエンジニアリング株式会社 | 1 |
| 東芝キャリア株式会社 | 1 |
| 矢崎総業株式会社 | 1 |

進学（編入学）先大学等

4名

| | |
|------------------------|---|
| 神戸大学大学院工学研究科 | 1 |
| 千葉大学大学院融合理工学府 | 1 |
| 電気通信大学大学院情報・ネットワーク工学専攻 | 1 |
| 東京医科歯科大学大学院生体材料工学研究院 | 1 |

教育後援会から

何故、勉強するの？

教育後援会会長 石井 征

やわらかな春光に心躍る季節となりました。皆様におかれましては、ご健勝にお過ごしのことと存じます。

すべての課程を修了し、晴れて卒業を迎えられる学生の皆様、そして見守り続けてこられた保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。貴重な青春時代をこの沼津高専で過ごし、社会の荒波に練り出す人、更に勉学に励み進学を志す人、それぞれ環境は変わりますが、皆様が希望と自信を持って力強く羽ばたいていくことを願っております。

また、熱心にご指導いただいた先生方、学校関係者の皆様、保護者を代表いたしまして心より御礼申し上げます。

「何故、勉強するの？」保護者の皆様は、このフレーズを1度はお子様から質問されたことがあるのではないのでしょうか？良い大学に入るため。将来のため。私もこんな曖昧な回答をしておりました。果たして子供たちは理解し、納得していたのでしょうか？先日ある大学教授の

コラムの中に「何故、勉強するの？」のフレーズを目にしたので引用いたします。

「何故、勉強するの？」の回答

- ①人類が数千年かけて積み上げてきた知識や技術のうち、比較的汎用性の高いものをたった9年の義務教育で学べます。こんなにありがたいことはありません。だから勉強しましょう。
- ②高校では更に汎用性を高め、大学等では専門知識や技術を身に付け、人生の選択肢を広げることができます。だから勉強しましょう。
- ③色々な知識を早い段階で身に付けると、残りの人生ずっとその知識の恩恵を受け続けられます。だから勉強しましょう。

学生の皆様は、②ステップの真只中です。将来③ステップを実感できるよう、是非勉強に励んでください。

初代学校長・井形厚臣先生が掲げた「人がらのよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」の教育理念を受け継がれ、学生の皆様が優秀な実践的・創造的技術者として、我が国の工業発展に貢献されることを期待しております。

同窓会から

時を活かす

同窓会会長 長岡 善章

1年間終わりましたね。卒業生の皆さんは、卒業おめでとうございます。これから社会に羽ばたいていく人、次の学校に進む人、さまざまでしょう。在学生も含めて、新たなスタートになるということでは、みんな一緒ですね。

歳を重ねるほど、1年が早く感じる、これを「ジャンナーの法則」というらしい。ということは、みなさんは（もちろん私も）、これからどんどん1年が、いままで以上に短く早く感じるようになる。この世の中、不公平と思うことは多い。社会に出ると、それをひしひしと感じる。そんな中、すべての人が同じだけ持っているのが「時」。1日24時間という「時」は、唯一、すべての人に、例外なく等しく与えられている。その「時」をどれだけ有効に活かすか、それがこれからの人生を分けるかもしれない。

時の活かし方について、私なりに思うことを、3つお伝えしたい。

まず1つ目は、1年で1つのことに、集中して取り組むということ。皆さんはまだ若い。いま身に着けた力は、これから数10年と活かすことができる。1年で1つ、10

年で10個のスキルや力を身に付けていけば、どんどんと新たな世界が広がっていくだろう。

2つ目は、急ぎではなくても重要なことに時間を取ること。社会に出ていくととても忙しい。仕事だけじゃなく、いろんな役割が増えていく。やることに期限が切れ、それをこなすことが最優先になったりする。その中で、期限は切られてないけど、ぜひ自分のためにやるべき重要事項に、一定の時間を確保してみたい。

3つ目は、早くやってみるということ。何かに取り組むとき、完璧を期すために、しっかり準備したり、時を待たたりすることもある。それが必要な時もあるだろう。でも可能であれば、ちょっとでもいい、とっかかりでもいい、体験だけでもいいので、できるだけ早く着手してみること。どんなに調べたとしても、それは誰か他人の体験。自分が体験するに勝るものはない。私はよく言うたとえだけ「コーラが旨いかまずいか議論しないで、まずは一口飲んでみよう。話はそれからだ」ということ。

この3つは密接に関係している。みんなに公平に与えられている「時」。それを自分で上手にコントロールできるようになると、日々が充実して楽しい時がすぐせられるかもしれない。みなさんが、そうなってくれることを、切に願っています。

お知らせ

令和5年度授業料免除及び徴収猶予等について

世帯収入の基準を満たし、しっかりとした学ぶ意欲がある本科4・5年生及び専攻科生については、申請により、文部科学省及び日本学生支援機構が行う高等教育の修学支援新制度が受けられます。対象となれば、返還不要の日本学生支援機構給付奨学金及び授業料・入学金の免除又は減額の支援を受けることができます。

また、経済的理由により授業料の納付が困難で、学力優秀と認められれば、授業料徴収猶予の申請が行えます。詳細は別途ご案内いたします。

なお、本科1～3年生は、原則として「就学支援金」制度により助成が行われます。

ご不明な点がございましたら、学生課学生係（055-926-5734）にお問い合わせください。

各種奨学金について

令和4年度に募集が行われた主な奨学金

| No. | 奨学金名 | 対象学年 | 応募資格 | 金額 | 返還 | 募集時期 |
|-----|----------------------|--------------------------|---|--|----|------|
| 1 | 【貸与型】 日本学生支援機構奨学金 | （無利息） 全学年 | 経済的理由により修学に困難がある優れた学生 | 月額1万円～5万1千円（入学年度、通学形態（自宅通学・自宅外通学）によって定められた2種類の額のいずれかを選択する） | 要 | 4月9月 |
| | | （有利息） 本科4・5年生 専攻科生 | | 月額2万円～12万円（1万円単位で貸与額を選択） | | |
| 2 | 【給付型】 日本学生支援機構奨学金 | 本科4・5年生 専攻科生 | 学ぶ意欲があり、以下のいずれかの区分に該当する者 【第Ⅰ区分】申請者と生計維持者の市町村民税所得割が非課税であること 【第Ⅱ区分】申請者と生計維持者の支給額算定基準の合計が100円以上25,600円未満であること 【第Ⅲ区分】申請者と生計維持者の支給額算定基準の合計が25,600円以上51,300円未満であること | 月額5千9百円～3万4千2百円（国立高専の場合） ※家計区分・在学中又は進学先大学等の設置者（国公立、私立）・通学形態（自宅通学、自宅外通学）により決まる | 不要 | 4月9月 |
| 3 | 天野工業技術研究所奨学金 | 本科5年生 | 第5学年に在学している学生で、人物、学業ともに優れ、かつ、経済的理由により修学が困難と認められる者のうち、以下の基準を全て満たす者 ①第4学年の学年末の学業成績が所属学科内の4分の1以内である者 ②直近3年間において懲戒処分を受けていない者 ③奨学金給付の前年度の後期授業料免除において授業料の全額免除を受けた者または奨学金給付の前年度に日本学生支援機構給付奨学金を受給した者 | 年額24万円 | 不要 | 4月 |

| No. | 奨学金名 | 対象学年 | 応募資格 | 金額 | 返還 | 募集時期 |
|-----|----------------------|-----------------|---|---|-----|--------|
| 4 | 公益財団法人ウシオ財団奨学金 | 本科5年生 | 専攻科への進学の意味が固く、奨学生候補者としてふさわしい者 | 月額6万円 | 不要 | 4月 |
| 5 | 静岡県高等学校等奨学金 | 本科1～5年生 | 保護者が静岡県内に居住しており、以下のいずれかに該当する世帯の者 ①生活保護を受給している ②市町民税が非課税になっている ③市町民税が減免になっている ④世帯全員の収入合計が生活保護基準額の1.5倍以下である | 自宅通学： 月額1万8千円 自宅外通学： 月額2万3千円 | 要 | 4月 |
| 6 | あしなが育英会奨学金 | 全学年 | 保護者等が、病気や災害もしくは自死等で死亡したり、それらが原因で著しい後遺障害を負い、教育費に困っている家庭の学生 | 月額4万5千円（貸与2万5千円、給付2万円） | 一部要 | 4～12月 |
| 7 | 公益財団法人エンケイ財団奨学金 | 本科4・5年生 専攻科生 | 以下の条件を全て満たす者 ①該当年度に本科4年生、5年生、専攻科1年生 ②前年度学年末成績が上位1/2以内の者 ③直近3年間に懲戒処分を受けていない者 | 月額2万円 | 不要 | 4月 |
| 8 | 川村育英会奨学金 | 本科3年生 | 以下の条件を全て満たす者 ①生計をひととする家族の年間収入（祖父母の年金収入は除く）が500万円以下 ②成績証明書（前年度学年末時点）記載の学業成績に占める、A評価の割合が50%以上 | 月額2万円 | 不要 | 4月 |
| 9 | 公益財団法人タミヤ奨学会奨学金 | 本科5年生 | 以下の条件を全て満たす者 ①国内の4年制大学に進学する者 ②学業・人物ともに優秀かつ健康な者 ③経済的理由から就学が困難な者 ④応募時の現住所が静岡県内である者 ⑤兄弟姉妹がタミヤ奨学金を受給していない者 | 月額2万5千円 | 不要 | 9～10月 |
| 10 | 公益財団法人スズキ教育文化財団大学奨学金 | 本科5年生 | 以下の条件を全て満たす者 ①4年制以上の大学に進学予定の者 ②向上心が強く、学業、人物とも優秀かつ健康であって、経済的理由により修学に専念出来ない者 ③大学入学後、給付、貸与を問わず他のいかなる奨学金も受給しない者 | 月額5万円 | 不要 | 12～1月 |
| 11 | 沼津中央ライオンズ基金奨学金 | 本科1・2年生 | 以下の条件を全て満たす者 ①沼津市に保護者と共に居住している者（ただし、寮生の場合は出身が沼津市内であれば可） ②品行方正、学業優秀又は一芸に秀でその道で将来を嘱望されている者で、かつ経済的援助が必要と認められる者 | 月額1万5千円以内 | 不要 | 11～12月 |
| 12 | 熱海市育英事業奨学金 | 全学年 | 以下の条件を全て満たす者 ①保護者が熱海市内に居住している者 ②翌4月に本校に在学している者又は大学（専攻科を含む）に進学する者 ③経済的理由により修学困難な者 ※その他学力・所得要件有り | 本科1～5年生：月額1万9千円以内 専攻科生・大学生：月額4万4千円以内 | 要 | 12～1月 |

※奨学金募集の有無・募集時期は、年度によって異なる場合がありますので、ご確認願います。

※申請者全員が採用されるとは限りません。

※上記以外にも、地域で奨学金の募集を行っている場合があります。詳しくは、お住まい地域の自治体へお問い合わせください。

令和5年度行事予定表

2023年

4月 入学式・入寮式
始業式・対面式・健康診断
クラブ紹介
1年合宿研修
2～4年クラス懇談会

5月 1年クラス懇談会
スポーツ大会・学生総会
寮祭
専攻科推薦入学試験
前期中間試験

6月 防災訓練・高専大会壮行会
専攻科学力選抜
東海地区高専体育大会（～7月）

7月 前期末試験（～8月）

8月 一日体験入学
夏季休業（～9月）

9月 1～4年保護者懇談会
寮生リーダー研修会
2年生特別研修
4年生キャリア研修

10月 体育祭・学生総会
全国高専プログラミングコンテスト全国大会
全国高専ロボットコンテスト東海北陸地区大会
文化講演会

11月 学科説明会
高専祭
後期中間試験
全国高専ロボットコンテスト全国大会

12月 3年インターンシップ企業説明会
専攻科入学説明会
冬季休業（～1月）

2024年

1月 推薦選抜入試
専攻科2年研究発表会

2月 卒業研究発表会
学年末試験・専攻科後期試験
学力選抜入試
専攻科1年学外実習最終報告会
終業式

3月 卒業式・修了式

意見箱について

本校では、より良い環境の下で、良質な教育を提供することに努めており、それには、保護者及び学生の皆様から寄せられる「声」は非常に重要なものです。そこで、本校の学校運営に関する課題・問題点を早期に把握し、その改善に資することを目的として『沼津工業高等専門学校意見箱』を設置しております。皆様からの学校運営に関する率直なご意見、ご要望、ご指摘等ございましたら、下記メールアドレス宛にお寄せください。

メールアドレス：ikenbako@numazu-ct.ac.jp

※注意事項

- ご意見等に対し、回答を要する場合は、学生所属クラス・保護者氏名または学生氏名を明記してください。匿名メールにつきましては、受付・調査等を行います。原則として回答はいたしません。
- ご意見等をお寄せいただいた方の不利益にならないように取扱います。（ただし、虚偽の通報、他人を誹謗中傷する通報、その他不正を目的とする通報の場合を除きます）
- 意見箱は週1回程度チェックします。
- 受信メールの内容が高専機構に関するもので、高専機構の「公益通報の処理等に関する規則」に規定する通報に該当する場合には、当該規程により取扱います。
- 公開が必要と認められる事案については、その結果を公表する場合があります。

「沼津高専だより」に関するお問い合わせ

出版委員会（事務担当：総務係）

Tel : 055 - 926 - 5712 E-Mail : soumu@numazu-ct.ac.jp



60周年の節目を迎えるにあたり、デザインを学生及び教職員から募集し「沼津高専ロゴマーク」を制定しました。

〈制作者のコメント〉

文字のカラーを5学科のカラーにすることでそれぞれの学科が互いに切磋琢磨し高め合う姿を表現しました。沼津の市章はあえて校章で用いられているカラーを変えないことで、現在の高専の良さを維持することを表現しました。また、矢印でこれからの進化に願いを込め、作成しました。